



栗原市立鳥矢崎小学校閉校記念誌



ありがとう

～みらいにつなぐ栗原市閉校記念誌～

2013.03



あいさつ

鳥矢崎小学校の閉校に寄せて
鳥矢崎小学校の閉校に寄せて
つなげよう！ 仲間と共に 最後まで
鳥矢崎小学校の閉校に寄せて

栗原市長 佐藤 勇 1
栗原市教育委員会教育長 亀井 芳光 2
栗原市立鳥矢崎小学校校長 三浦 勝幸 3
鳥矢崎小学校PTA会長 千葉 雄一 4

鳥矢崎小学校のあゆみ 5～6

学校の概要 7～8

校歌 9

校章・児童数の推移 10

歴代校長 11

歴代PTA会長 12

寄稿文

～歴代校長～	「鳥矢崎魂永遠（とわ）に」 一夢を抱いて—	第5代校長	千葉理恵子	13
	「学びがい・働きがい・協力しがいのある学校」を目指して	第8代校長	佐藤 佳彦	14
	鳥矢崎小学校の思い出断章	第10代校長	佐藤 新一	15
～歴代PTA会長～	閉校にあたって	初代会長	佐藤 東一	16
	鳥矢崎小学校の思い出に寄せて	第5代会長	千葉 育夫	16
	思い出そして子供たちへ	第8代会長	菊池 正弘	17
	鳥矢崎小学校閉校にあたり	第13代会長	今田 雅宏	17
～元職員～	開校当時の思い出	元職員	千葉 功	18
	ありがとう・感謝 鳥矢崎小学校	元職員	小野寺明美	18
	希望を胸に	元職員	佐藤由紀子	19
	豊かな子どもたちを育んだ学校	元職員	熱海 宏明	19
	鳥矢崎の子六訓	元職員	小野寺敏美	20
	思い出は子どもたちの笑顔と共に	元職員	熊谷かをる	20
～卒業生～	鳥矢崎小学校の思い出	平成2年度卒業	菅原 耕司	21
	鳥矢崎小学校の思い出	平成3年度卒業	小野寺（旧姓）恒二	22
	親子でお世話になりました	平成4年度卒業	菅原 孝志	22
	貴重な4年間	平成5年度卒業	清水（旧姓）香織	23
	在校当時の思い出を振り返って	平成6年度卒業	内海（旧姓）久我）志保	23
	ありがとう	平成7年度卒業	工藤 瑠美	24
	自分を育ててくれた母校	平成8年度卒業	佐藤 良昭	24
	在校生の皆様へ	平成9年度卒業	千葉 貴宏	25
	私がいた鳥矢崎小学校へ	平成10年度卒業	二階堂由佳	25
	ありがとう鳥矢崎小学校	平成11年度卒業	佐藤 真理	26
	思い出・感謝	平成12年度卒業	熊谷 慎也	26
	あの頃のいまは	平成13年度卒業	土井 亨	27
	鳥矢崎小学校卒業生として	平成14年度卒業	安藤 拓哉	27
	鳥矢崎小学校について思い出せること	平成15年度卒業	鈴木 一平	28
	学び舎の思い出	平成16年度卒業	菅原 陽	28
	鳥矢崎小学校の思い出	平成17年度卒業	石川 美紅	29
	夢に向かって	平成18年度卒業	千葉明日香	29
	鳥矢崎小学校での思い出	平成19年度卒業	佐藤 慎也	30
	鳥矢崎小学校	平成20年度卒業	安藤 奨馬	30
	忘れられない6年間	平成21年度卒業	佐藤 香那	31
	鳥矢崎小学校で学んだこと	平成22年度卒業	千葉慎太郎	32
	大好きな鳥矢崎小学校	平成23年度卒業	安藤由未	32
～在校生～			1年生	33
			2年生	34
			3年生	35
			4年生	36
			5年生	37
			6年生	38

思い出のアルバム 39

編集後記

閉校記念誌編集委員会一同 40

表紙写真提供：ユニオンエンタープライズ㈱



**鳥矢崎小学校の閉校に寄せて**

栗原市長 佐藤 勇

秀峰栗駒山の裾野に位置した、自然豊かな地で、子どもたちに多くの学びを与えてきた鳥矢崎小学校が閉校するにあたり一言ごあいさつ申し上げます。

鳥矢崎小学校は、平成2年に開校して以来、23年にわたり鳥矢崎地区の発展に重要な役割を果たしてこられました。この間、多くの優れた人材を世に送り出し、県内外におきまして、幅広い分野で御活躍されておりますことは、鳥矢崎地区の皆様の長年にわたる温かい御支援の賜であり、厚く御礼申し上げます。また、歴代の校長先生をはじめ、教職員、関係者の皆様の並々ならぬ御尽力に対し、深く敬意と感謝の意を表する次第であります。

さて、小学校の合併などを重ねながらも、保護者をはじめ地域の方々の学校教育に対する深い御理解と御協力により、健全な子どもたちの育成やPTA活動が活発に行われてきたのが鳥矢崎小学校であります。

特に、鳥矢崎小学校の特徴である「鳥矢崎の子六訓」は、豊かな感情と意思を育み、それぞれの性格や生活環境をより望ましいものに育てる教育作用という意味を大切にされ、子どもたちに身につけてほしい「生き方の姿勢」を示すものとして位置付けられてきました。現在におきましても、この「鳥矢崎の子六訓」は、学校生活における子どもたちの心の拠り所になっており、多くの卒業生や保護者をはじめとし、地域の皆様から受け継がれてきた伝統の校風といえます。

また、異学年交流を重視され、年間を通して体育集会やたてわり給食を実施されてきたほか、健康づくりにも注力され、業間マラソンや縄跳び等の体力づくり、自校給食の良さを活かした食育を積極的に推進、さらには歯科校医の協力を得て、歯・口の健康づくりにも継続的に取り組まれてきたところでもあります。

このような活動が認められ、よい歯の学校として日本学校歯科医会や宮城県歯科医師会から多くの表彰を受けるなど、長年の取り組みが認められ、地域と学校が一体となった教育が子どもたちを健やかに育ててきたものと感じております。

これまで当校を巣立った皆様にとって、母校の閉校は何事にも耐え難い寂しさであり、また、地域の皆様の愛惜の念も深いものと拝察いたします。しかし、ここで歴史が終わるのではなく、これからは次代へ鳥矢崎の歴史と伝統が受け継がれていくよう願うものであります。

今後、「学府くりはら」の実現に向けて、教師と子どもたちがしっかりと向き合い、学校生活に満足感や達成感がこれまで以上に得られる、教育環境づくりを目指すとともに、鳥矢崎小学校が育んだ歴史が長く受け継がれ、新しい地域の歴史が築かれていくことを心から御祈念申し上げ、閉校記念誌発刊のあいさつといたします。

秀峰 栗駒山





鳥矢崎小学校の閉校に寄せて

栗原市教育委員会
教育長 亀井 芳光

鳥矢崎小学校は、私の教員生活のスタートの学校であり、忘れられない思い出の学校であります。鳥矢崎小学校と鳥谷小学校が統合される前の昭和46年5月から昭和47年3月まで、代替教員として鳥谷小学校に勤務させていただきました。当時は運転免許を取得していなかったのでバスを使って通勤しました。自宅から岩ヶ崎までバスに乗り、乗り換えて諏訪橋前の停留所まで行き、徒歩で学校まで歩くという毎日でした。

通勤も大変でしたが、それ以上に大変だったのが「子どもたちに教えること」の難しさを肌で感じさせられたことでもあります。私は教育実習の経験はあるものの、教員としての力量がまったく備わっていなかった状態だったので、子どもたちや保護者の方々に大変ご迷惑をかけてしまったことを今でも覚えております。そんな私を支えてくれたのが子どもたちであり、地域の方々であり、先輩の先生方でした。今でも感謝の念でいっぱいです。

また、一緒に勤務はできませんでしたが、前任の校長先生が「たねまき坊主」の生みの親である今野清代先生であったことから、子どもたちと一緒に栗駒山に向かい、新沼護先生のアコーディオンや高橋八重子先生のピアノに合わせ、大きな声で歌ったことも懐かしい思い出です。

その鳥谷小学校も児童数の減少に伴い、平成2年、鳥矢崎小学校と統合し、新しい鳥矢崎小学校の伝統を創り上げ、学習・文化・スポーツの分野においても、更には緑化活動においても目を見張る活躍をしてきたことは、誰もが認めるところであります。また、PTA活動も活発で、学校の行事には協力を惜しまず、まさに、地域が一体となり「学校は地域に浮かぶ船である」と言われるように、学校が地域文化の振興や交流活動の核として、地域に根ざしてきたことを忘れることはできません。

しかしながら、児童数が著しく減少し、今後も減少傾向が続く現状を踏まえ、また、急激に変化する時代に生きる子どもたちの将来を考えると、学校再編は避けて通ることはできません。二度にわたる統合・再編、更には歴史と伝統を受け継がれてきた学校が地域から消えるということは、地域の皆様や多くの卒業生にとって、やりきれない寂しさを覚えるのは当然のことと思います。

そのように地域にとっても、私にとっても思い出多い鳥矢崎小学校は平成25年4月、岩ヶ崎小学校・栗駒小学校と再編し、新生「栗駒小学校」として現在の岩ヶ崎小学校校舎のもとでスタートすることになりました。再編にあたり、ご理解とご協力をいただきました鳥矢崎地区の皆様にご心より感謝申し上げます。

再編後は、子どもたちも地区の皆様もこれまで脈々と受け継がれてきた鳥矢崎小学校の輝かしい歴史と伝統を受け継ぎ、新しい出会いを喜び、共に学び、励ましあいながら、新しい伝統を築き上げ、「地域とともに歩む 新しい学校」の創造に向けて取り組んでいってくださることを信じてやみません。その実現のためには、地域・家庭・学校・教育委員会ははじめ関係機関との連携が大切であります。新たに仲間となる3つの小学校の子どもたち、保護者、地域の皆様との交流を深め、「再編してよかった」と語り継がれる新しい学校を創り上げていただきたいと願っております。

結びに、閉校にあたり、これまで永きにわたり鳥矢崎小学校を温かく見守り、支えていただきました地域の皆様にご心より敬意と感謝を申し上げまして、閉校記念誌に寄せる言葉といたします。



**つなげよう！ 仲間と共に 最後まで**

栗原市立鳥矢崎小学校

校長 三浦 勝幸

昨年度、鳥矢崎小学校に赴任し、初めて鳥矢崎小学校の子供たちに会ったとき、気を付けの姿勢で「おはようございます」と挨拶され、のけぞって驚いたことを思い出します。今時、このようなきちんとした心のこもった挨拶をする小学生がいるのかと、本心から感心しました。先生方に「栗原の子供たちはみんなこんな素晴らしい挨拶をするのですか」と聞きました。すると、「たぶん、鳥矢崎小だけだと思います」と言われました。

10月28日に学芸会が行われました。鳥矢崎小学校最後の学芸会ということもあり、子供たちの演技はとても素晴らしいものでした。去年も感じたことですが、やはり今年も感じました。それは、観客の皆様のみならず、一言も発せず、身じろぎもせず、じっと見つめています。その視線は、本当に突き刺さるかのようです。鳥矢崎小学校の子供たちは、このまなざしで育ってきたのです。素直で真っ直ぐで真面目で、そして、優しい子供たちばかりというのがすとんと納得できます。

学芸会は、その年の子供たちと先生方で創り上げていくものです。ですが、今年一年間だけで創り上げられたものではありません。鳥矢崎小学校23年間の、いえ、統合する前の、ずっとずっと前からの地域の人たちのまなざし、去年の、一昨年の、その前の、そのまた前の先輩たちの演技。それらを見て学んでの今年の演技です。間違いなく、これまでの地域の歴史が、営みが、教育が、子供たちに入り込んでいます。これまでの積み重ねが子供たちの姿にあふれていました。

鳥矢崎小学校の子供たちは本当に素晴らしい子供たちです。学校生活はもちろんですが、市内の他校との対抗戦である陸上大会や水泳大会、作文、図画工作等の各種コンクールでたくさんの賞を獲得し、賞状伝達だけの朝会を何度となく行いました。他の学校と競っても遺憾なく実力を発揮でき、結果を残す鳥矢崎小学校の子供たちの力は本当にすごいなあと、いつもいつも感じ入ってきました。これは、学校生活を「鳥矢崎の子六訓」に示された教えに則り、自分を律して、六訓の実現に向け、真摯に、「いつでも全力」で努力し続けた証だと、誇らしくさえ思えます。

今年の6年生が考えた鳥矢崎小学校最後の一年間の教育活動を貫くスローガンは、「つなげよう！

仲間と共に 最後まで」です。子供たちの思いの中にも、鳥矢崎小学校の中でこれまでに受け継がれ守られてきた「もの」の重みがしっかりと根付いているのです。たとえ鳥矢崎小学校が閉校になり、新生栗駒小学校に、または栗駒中学校に行っても、今までと同じように、実力を蓄え、発揮していくものと信じています。

鳥矢崎小学校は、平成25年3月31日で閉校になりますが、これまで培われてきた鳥矢崎小学校の伝統は子供たちの中に生きてつながっていきます。鳥矢崎小学校はなくなっても、鳥矢崎という地域はなくなりません。何小学校に行っても、何中学校に行っても、また、社会に出ても、鳥矢崎の子供たちは、いつまでも鳥矢崎の子供たちです。これまでと同じまなざしで、鳥矢崎の子供たちを見つめ育てていってください。そして、子供たちも私たち教職員も、これまでの長きにわたる伝統の重みに感謝して、鳥矢崎小学校の歴史を閉じます。

本当に、ありがとうございました。





鳥矢崎小学校の閉校に寄せて

栗原市立鳥矢崎小学校
PTA会長 千葉 雄一

旧鳥矢崎小学校と鳥谷小学校の兄弟校がひとつになり、新生「鳥矢崎小学校」が誕生してから23年。とても残念と言わざるを得ませんが、本校は今年度をもってその歴史を閉じることになりました。

最も多い時には170人だった児童数が、今年度は54人まで減少し、子どもたちの教育環境を考えた結果とはいえ、もうすぐこの学び舎から子どもたちの元気な声が消えるかと思うと、一抹の寂しさを覚えるのは私だけではないと思います。

この23年間、校庭から見える雄大な栗駒山に見守られながら、延べ497人の児童がこの学び舎で最も重要な成長期ともいえる小学校生活を送りました。それぞれの子どもたちにとって、この学校は特別の場所であり、ここで学んだことはそれぞれの人生において、何事にも代えがたい財産になっていることと思います。

広大な敷地と緑豊かな学校環境、小規模校ならではのきめ細かい指導、縦割り活動による学年を超えた児童の交流・・・鳥矢崎小学校の素晴らしいところをあげれば、枚挙にいとまがありません。そしてその中でも特筆すべきは、学校行事やPTA活動への保護者の積極的な参加ではないでしょうか。「子どもは親の背中を見て育つ」という言葉がありますが、このような保護者の姿勢が、鳥矢崎の子どもたちの健やかな成長に良い影響をもたらしており、そのことは卒業生の活躍を見れば明らかと言えます。私は縁あって最後のPTA会長を拝命しましたが、何事にも協力的な保護者の皆様の支えにより、何とか務め上げることができたと思っており、この場を借りて改めて感謝を申し上げます。

これまでの沿革を見ると、本校は自然を生かした「花壇コンクール」や食育を通じた「歯・口の健康づくり」に取り組んできたことがよく分かります。特に食育においては、自ら作物を育て、収穫の喜びを体験し、縦割り班が協力し合いながら調理する収穫祭、歯みがきタイムの実践や保健指導など、私たち保護者が家庭で十分教育できていないことを補っていただいたと感じています。

また、平成20年度に制定された「鳥矢崎の子六訓」に基づく指導は、子どもたちに身につけてほしい「生き方の姿勢」を示していただくとともに、私たち保護者にも改めて生活する上での大切さを教えていただきました。

このように素晴らしい環境で小学校生活を送った子どもたちは、来年度から本校、岩ヶ崎小学校、栗駒小学校が統合して誕生する新「栗駒小学校」に通学することになります。今はまだ不安でいっぱいかもしれませんが、新しい学校においても、きっと鳥矢崎の子どもたちは、臆することなく、のびのびと、勉強に運動に励んでくれることと思います。保護者の皆様におかれましては、これまで以上に子どもたちを励ましていただくとともに、PTA活動についても、今後ともご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、子どもたちをご指導いただいた歴任教職員の皆様、そして子どもたちを温かく見守ってくださった地域の皆様に心から感謝を申し上げ、閉校に寄せてのあいさつといたします。





年度	月	歴代校長名	主な事項
平成 2	4	千葉 福男	栗駒町立鳥矢崎小学校開校
	11		よい歯の学校として宮城県学校歯科医会より表彰
	12		校舎落成記念式典
	12		校歌披露式・校旗樹立式
平成 3	5		校庭前庭造成
	11		よい歯の学校として宮城県学校歯科医会より表彰
平成 4	9	工藤 豊明	全国花いっぱいコンクール優良賞
	11		よい歯の学校として宮城県学校歯科医会より表彰
	11		宮城県花壇コンクール 優秀賞
平成 5	10		優良子ども銀行として大蔵大臣賞受賞
	11		宮城県学校花壇コンクール優良賞
	12		全日本よい歯の学校として日本学校歯科医師会より表彰
	1		宮城県学校花壇コンクール優良賞
	3		つばさ児童会の歌作成
平成 6	9		全日本よい歯の学校として日本学校歯科医会より表彰
	11		宮城県学校花壇コンクール優秀賞
	1		全国花いっぱいコンクール優良賞
平成 7	4	松井 史朗	文部省研究指定「心身障害児理解推進校」(～8年)
平成 8	10		文部省研究指定「心身障害児理解推進校」研究公開
平成 9	10	長谷部憲穂	宮城県学校花壇コンクール特選
	11		みやぎ花いっぱいコンクール優良賞
平成 10	9		歯科保健指導と口腔衛生向上を宮城県歯科医師会より表彰
平成 11	4		宮城県貯蓄推進委員会指定「金銭教育研究校」(～12年)
	11		宮城県学校花壇コンクール特選
平成 12	1	千葉理恵子	みやぎ花いっぱいコンクール優良賞
	10		全国花いっぱいコンクール地区優良賞
	3		宮城県貯蓄推進委員会指定「金銭教育研究校」まとめ発表
平成 13	11		宮城県学校花壇コンクール特選
	1		みやぎ花いっぱいコンクール優良賞
平成 14	9	菅原 勝	よい歯の学校として宮城県歯科医師会より「功労賞」表彰
	9		栗駒町歯科保健モデル事業
	12		宮城県教育委員会指定「心をはぐくむ教育活動推進校」実践発表
	1		みやぎ花いっぱいコンクール優良賞
平成 15	9		よい歯の学校として宮城県歯科医師会より表彰
	11		宮城県学校花壇コンクール特選
			みやぎ花いっぱいコンクール優良賞
平成 16	9	澁谷 正三	よい歯の学校として宮城県歯科医師会より表彰
	10		学校評議員制度導入
	10		全国花いっぱいコンクール地区優良賞
	11		宮城県学校花壇コンクール特別賞
	11		みやぎ花いっぱいコンクール優良賞
	1		スクールバス1台更新
	平成 17		4
4		宮城県教育委員会指定「英語教育推進事業」(～20年)	
10		よい歯の学校として宮城県歯科医師会より表彰	





年度	月	歴代校長名	主な事項
平成 17	11	澁谷 正三	宮城県学校花壇コンクール優秀賞
	2		スクールバス 1 台更新
	3		プール塗装工事
平成 18	4		特殊学級（知的障害）新設
	10		よい歯の学校として宮城県歯科医師会より表彰
	11		宮城県学校花壇コンクール優秀賞
平成 19	4	佐藤 佳彦	日本学校歯科医会より「生活習慣病予防等を目指した歯・口の健康 つくり調査研究事業」委嘱
	9		よい歯の学校として宮城県歯科医師会より表彰
	11		宮城県学校花壇コンクール優良賞
平成 20	4		「鳥矢崎の子六訓」制定
	6		岩手・宮城内陸地震発生
	9		よい歯の学校として宮城県歯科医師会より表彰
	11		日本学校歯科医会委嘱「生活習慣病予防等を目指した歯・口の健康 つくり調査研究事業」研究実践発表会
	11		宮城県学校花壇コンクール優良賞・鈴木長治賞
平成 21	4	内海 茂夫	体力・運動能力向上サポート研修実践校
	4		宮城県歯科医師会「宮城県の衛生指定校」事業推進校（～22年）
	11		よい歯の学校として宮城県歯科医師会より表彰
平成 22		佐藤 新一	
	4		宮城県教育委員会指定「学力向上サポープログラム事業」（1年）
	10		口腔衛生向上の功績10年連続表彰
	11		福祉に関する標語・ポスター学校表彰
	11		みやぎっ子ルルブル推進会議より「生活習慣確立の実践と功績表彰」
平成 23	3	三浦 勝幸	東北地方太平洋沖地震発生
	4		東北地方太平洋沖地震の大規模余震発生
	2		岩ヶ崎小学校及び栗駒小学校との再編確定
平成 24	8		校地内の放射性物質除染作業終了
	11		よい歯の学校として宮城県歯科医師会より表彰
	2		閉校式
	3		閉校

写真提供：ユニオンエンタープライズ㈱



『鳥矢崎の子六訓』と目指す子ども像

鳥矢崎の子六訓

一人のときも みんなと助け合うときも
鳥矢崎の子は

- だれにでも親切にします
 - 礼儀正しくします
 - 進んで学びます
 - 元気に遊びます
 - 喜んで働きます
 - よく考えて行動します
- そして 根気強くやりぬきます



六訓に込めた願い

- ①「訓」のもつ「子どもに豊かな感情と意思をはぐくみ、子どもの性格や生活環境をより望ましいものに育てる教育作用」という意味を大切にする。
- ②本校の子どもたちに身につけてほしい「生き方の姿勢」を示すものとして位置付ける。
- ③子どもの心に残り、自己の「踏ん張り時」に子どもの支えとなるものにしていく。
- ④昭和初期には、小学校でも「校訓」「学習訓」「姿勢訓」などが存在した、栗原の教育風土を大切にしたい。

学区略図



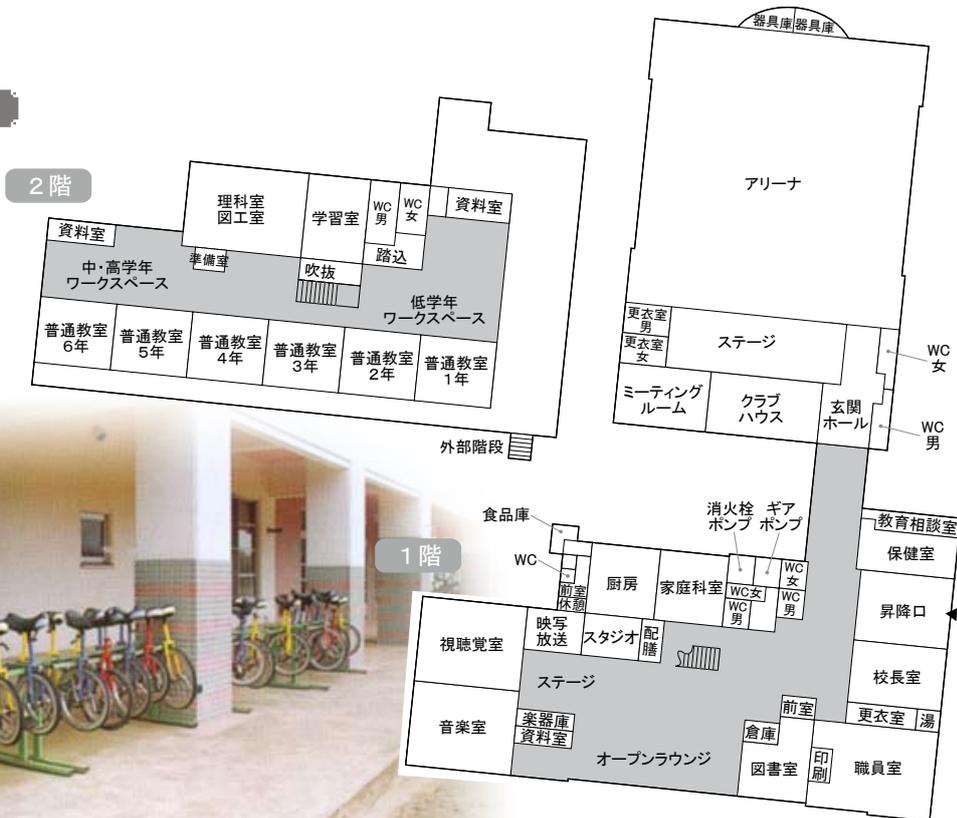


校舎のようす

学校平面図



校舎配置図





鳥矢崎小学校 校歌

作詞 家喜 喜代治
作曲 菅原 元次郎

い
いく

5
ちり ぼ う せ ん り し や す ま さ 二 と お く き ぎ
り こ ま お ろ し や す ま さ 二 と お く き は ぎ さ

9
の ま の み な ど が り れ た た だ け 二 よ る わ と ひ し も

13
か こ す こ み ろ に ぎ え が の く か た ぜ い か お う る の わ が が

17
ま や な く び そ や ら の ま 二 ど て 二 に こ そ わ つ か よ

21
き く の び ひ ゆ く ち の か 二 ち ら あ あ ひ り り



鳥矢崎小学校 校歌

作詞 家喜 喜代治
作曲 菅原 元次郎

一 一望千里 山遠く

木々のみどり ただよわし

霞沢の 風薫る

わが学び舎の 窓にこそ

若き伸びゆく命あり

二 栗駒おろし すさぶとも

迫の流れ たけるとも

心にえがく 太陽の

輝く空の はてにこそ

強く伸びゆく力あり

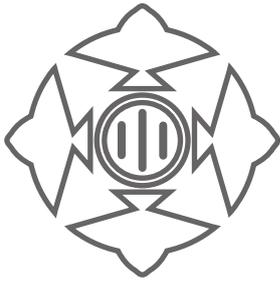
平成二年十二月十六日制定





校章（校章の由来）

校章の由来



猿飛来、里谷、深谷、鳥沢から本校に通学する児童を二重の輪で固く結び、和と協調を表現している。校名に由来する鳥は、平和を表し、大空に羽ばたく姿に勇躍・発展の願いを込めている。

また、鳥と鳥との間に樹木四本を配し、児童一人一人の限りない、健やかな成長を願っている。

さらに、鳥と樹木の配置により、豊かな自然に恵まれた環境にある学校を表現している。

平成2年4月1日制定 校章作成者 佐藤 彰先生（元栗駒中学校校長）

児童数の推移



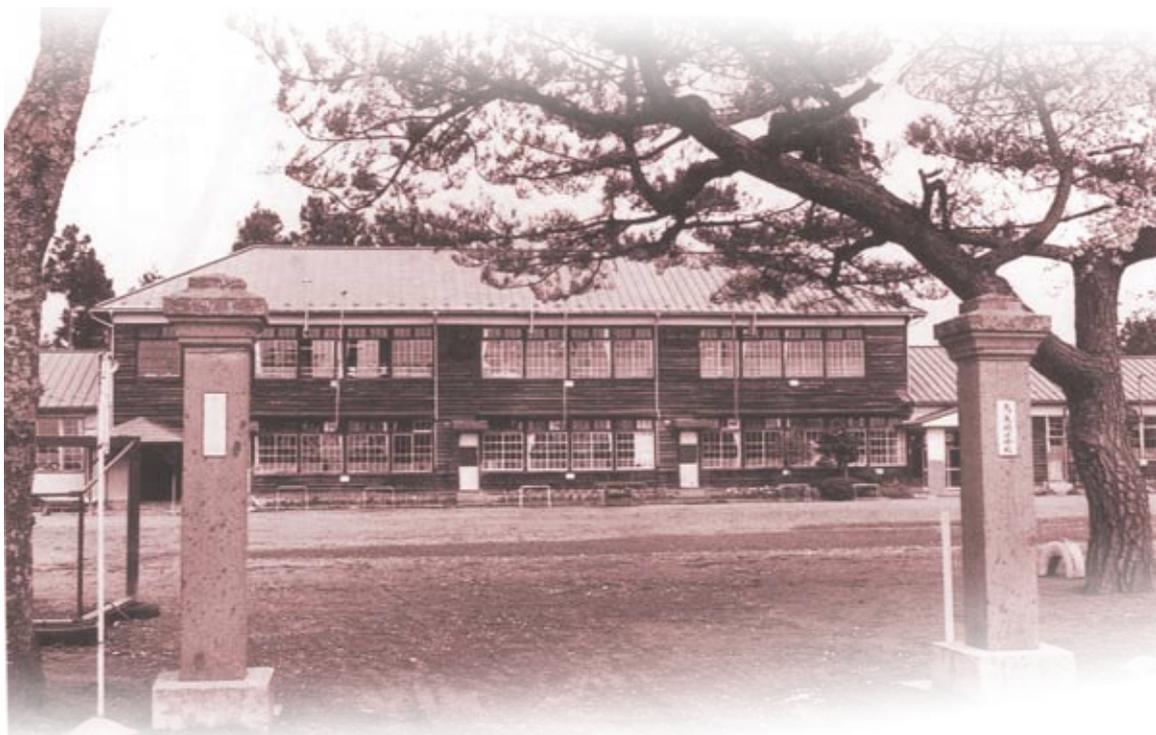


- 初代 平成 2年度～平成 3年度 千葉 福男 校長
第2代 平成 4年度～平成 6年度 工藤 豊明 校長
第3代 平成 7年度～平成 8年度 松井 史朗 校長
第4代 平成 9年度～平成 11年度 長谷部憲徳 校長
第5代 平成 12年度～平成 13年度 千葉理恵子 校長
第6代 平成 14年度～平成 15年度 菅原 勝 校長
第7代 平成 16年度～平成 18年度 澁谷 正三 校長
第8代 平成 19年度～平成 20年度 佐藤 佳彦 校長
第9代 平成 21年度 内海 茂夫 校長
第10代 平成 21年度～平成 22年度 佐藤 新一 校長
第11代 平成 23年度～平成 24年度 三浦 勝幸 校長





初代	平成2年度～平成3年度	佐藤 東一	会長
第2代	平成4年度～平成5年度	菅原 孝行	会長
第3代	平成6年度～平成8年度	鎌田 啓司	会長
第4代	平成9年度	渡邊 幸平	会長
第5代	平成10年度	千葉 育夫	会長
第6代	平成11年度	阿部 東一	会長
第7代	平成12年度～平成13年度	後藤 孝	会長
第8代	平成14年度	菊地 正弘	会長
第9代	平成15年度～平成16年度	熊谷 長悦	会長
第10代	平成17年度～平成18年度	鈴木 守	会長
第11代	平成19年度	菅原 主税	会長
第12代	平成20年度	千葉 武敏	会長
第13代	平成21年度～平成23年度	今田 雅宏	会長
第14代	平成24年度	千葉 雄一	会長





『鳥矢崎魂永遠(とわ)に』一夢を抱いて一

第5代校長 千葉 理恵子

除染された校庭、岩手・宮城内陸地震において、自衛隊災害救助活動及びヘリコプター発着所の拠点となり、東日本大震災においてもびくともしなかった学校を目の前にし、感慨無量の思いです。

私は、校長・園長として、平成12年から2年間勤務し、38年間の教員生活締めくくりとして充実した教職生活を送ることができました。心より感謝いたします。元鳥矢崎小学校は母校です。しかも生前父は剣道で、母は元教諭としてお世話になっており、身の引き締まる思いでした。「栗駒おろしすさぶとも…」校歌は懐かしい曲です。

現在の学校は116年の長い歴史と伝統のある元鳥矢崎小学校と元鳥谷小学校両校の地区民の強い思いである子どもの教育、心の成長、安全等に対しての環境が多方面から見事に配慮されていることに感心しました。広い校庭、見事な花壇、体育館の肋木と巨大な姿見、絨毯張りの階段と廊下、非常階段に続いている全教室のベランダと広いテラス、遊び心と夢を感じさせられる廊下とステンドグラス等です。

この環境をフルに生かすと共に、伝統をさらに発展させていこうと先生方と確認し合いました。

温故知新。5年間に築き受け継がれてきた「鳥矢崎の子六訓」があり、「●親切●礼儀●遊び●働き●よく考え●根気よく」を目標に活動しました。また、「オアシス運動」に取り組み、挨拶はさわやかでした。挨拶や笑顔は人を温かくします。

地域の教育力もフルに生かして頂き、地域と共に歩む学校をめざし、子ども自身が自信を持つような工夫をしようと検討し合いました。前鳥矢ヶ崎史跡公園保存会会長鎌田様には、古墳群から分かることを講話して頂きました。「金銭教育」「森と環境」「人権教育」「下水と水道水の利用」等においてもそれぞれの分野に携わっている方々が快く協力して下さい、感謝でいっぱいでした。交流活動はまず幼稚園から。初年度は5年生のベルの演奏で交流し目は輝いていました。金成支援学校、愛光園、スポーツ振興会の方々とも交流。感動したり、見慣れている高台が重要な史跡であり戦いの場であり、阿豆流為(アテルイ)の存在等に大きな驚きと発見をし、生活に対する心構えを子どもなりにつかんでいきました。さらに伝統の娘神楽、猿飛来神楽、剣道、相撲の発表の場を学校行事やPTA行事にも設けることになり、子どもと地域の方がお互い知り合い、校内の紹介をする機会も増えました。子どもたちはまた一步前進です。

相撲は東北大会に出場もでき、剣道は大きな大会で優勝経験のある親もおり頑張りました。指導者の熱意と親の一丸となつての支援に敬服しました。私も練習や大会に立ち寄ることで大いに勉強になりました。鶯沢工業高校生によるパソコン操作指導では子どもたちの目は輝いていました。小・高の連携です。

平成12年には「栗駒町歯科保健モデル推進地区指定」を受け、歯科校医阿部様と町歯科保健士佐藤様にPTA・地区懇談会等でも健康づくりについてご指導頂きました。地域ぐるみで対策を話し合い、まず家族ぐるみの取り組みから始め成果をあげ、平成13年には“よい歯と口腔衛生向上の学校”を受賞。平成13年3月には宮城県貯蓄委員会指定「金銭教育研究校」の実践のまとめを発表しました。また、平成12年のPTA研究大会での実践発表を契機に学年PTAが設けられ、女性の活動も積極的になり、学校全体が熱気に溢れているようでした。「地域のスポーツ振興に寄与したこと」(平13受賞)「花壇コンクール」(平12、13)関係で県・全国から優良賞や特選を受賞したのもその表れです。

平成12年、教育委員会では、安全面から町道と校地の境のグリーンポールの設置と避難階段の修理をして下さいました。

貴重な経験としては、まず栗駒町総合体育館で開催された「第56回国民体育大会秋季相撲競技」の開会式(平13)に鳥矢崎小学校の3年生以上が、元紀宮清子内親王様の両脇の座席で観戦できたこと(1、2年生は手作りの日の丸の小旗で沿道で歓迎)。白熱した相撲競技も観戦でき、学校に簡易相撲場を造って頂いたことです。多様な経験をすることで根気強さと自信をつけていき、次第に文化面や生活面にも波及していきました。自主的な雪かきは後輩のよき手本となり、毎年続けました。

次に、「童謡たねまき坊主」復活の際、童謡にするために意を尽された第28代鳥谷小学校校長今野清代先生の手がかりを知る一援助が出来たこと、やがて“わらべの会”との交流の契機になったことです。

青少年赤十字の再登録、書初の席書会、講師を依頼しての毛筆等の職員実技研修、子どもたちと走った朝マラソン、講話朝会等々、良き思い出です。教職最終日の深夜、鳥矢崎小学校に手を合わせ38年間の教職を全うできたことを感謝しました。

子どもも大人も前向きで努力する姿勢に鳥矢崎魂を感じています。再編しましても地区民の願いを大切に、ますます発展することを期待します。

一子どもたちが夢と希望をもってますます輝けますように一





『学びがい・働きがい・協力しがいのある学校』を目指して

第8代校長 佐藤 佳彦

私は、校長として平成19・20年度の2年間勤務しました。平成20年6月の「岩手・宮城内陸地震」をはじめ、大変なことも様々ありましたが忘れられない、貴重な2年間でした。

鳥矢崎小学校での2年を振り返ったとき、まず思い浮かぶことは、学校づくりの基本方針として掲げた次のことです。

『聴』の構えを大切にして、子どもにとって「学びがい」のある学校、教職員にとって「働きがい」のある学校、保護者や地域の皆様にとって「協力しがい」のある学校づくり

教育に携わる者としての力量と人間性にあふれる職員の努力もあり、日々の授業の充実は勿論のこと、鳥矢ヶ崎史跡公園清掃活動などの子どもが地域のよさを見つめ直す行事の創設、300名を超える参会者を得た「生活習慣病予防等を目指した歯・口の健康づくり調査研究事業」公開研究会の開催など、学校・家庭・地域が一体となった教育活動を数多く展開することができました。

私は、2年間の勤務の中で、子どもたちの一生懸命さ、純粹さ、素直さに沢山のことを教えられました。また、保護者や地域の皆様の「子どもを育てる」ということに対する姿勢や真剣さ、人と人との結びつきを大切にする風土から数多くのことを学ばされました。そして、「すべては子どもたちのために」という考えの下、子どもたちの学校生活をいかに充実させるかということに知恵を出し合い、力を尽くす職員の姿から「人を導く者」としての有り様に改めて気付かされました。

今も全校児童が集まる機会に唱和されていると聞く『鳥矢崎の子六訓』についても、私には強い思い入れがあります。『鳥矢崎の子六訓』の制定にあたっては、職員と次のことを確認しました。

○本校の子どもたちに備え、身に付けてほしい生き方の姿勢を示すものとして位置付ける。

○子どもに残り、自己の「踏ん張り時」に子どもが支えとなるものにしていく。

○昭和初期、小学校に「校訓」「学習訓」「姿勢訓」があった、栗原の教育風土を大切にしたい。

閉校となっても、鳥矢崎小学校で学んだ子どもたちにはこの『鳥矢崎の子六訓』をしっかりと胸に刻んで、心身ともにたくましく、しなやかに育ってほしいと願っています。



鳥矢崎小学校から離任する際、私はその心境を「会津の三泣き」という言葉をまねた「鳥矢崎の三泣き」という言葉で、学校日より『鳥矢崎の子』に次のように記しました。

○初めは、両親の故郷である栗原に勤務することになったどこか不思議な縁とありがたさに泣き

○子どもたちは勿論、保護者や地域の皆様が何かにつけて「校長先生」と声を掛けてくださったり、誘ってくださったりする心遣いに泣かされ

○たった2年間でしたが、鳥矢崎の皆さんの温かい人情にふれて、鳥矢崎を離れがたく泣く

今も、私のこのときの心境はそのままです。本当に「子ども」「学校」というものを改めて見つめ直す貴重な2年間でした。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

私は今、気仙沼市で東日本大震災からの教育の復興に関する仕事をしていますが、鳥矢崎小学校で学んだことを心の支えとして、しっかり力を尽くしていきたいと考えています。



プール清掃（平成20年）



**鳥矢崎小学校の思い出断章**

第10代校長 佐藤 新一

1 初めて小学生の前に立つ

平成22年の1月、鳥矢崎小学校に赴任した。中学校勤務が殆どで小学校の経験のない私に代表の児童は、「私たちの学校は、花と緑に囲まれ環境が良いです。みんな仲良しです。私たちはめあてをもって生活しています。」と紹介し迎えてくれた。小学生がめあてをもって生活していると聞いてとても感心したのを覚えている。鳥矢崎の子どもたちは、「鳥矢崎の子六訓」を自分たちの行動の指針の一つとして学校生活を送っていた。平成20年当時の前任者が制定したものであるが、わずか2年で子どもたちの中に定着していた。そんなすてきな子どもたち、保護者そして先生方との出会いに感謝。

2 恐ろしいかな 幼稚園児

鳥矢崎小学校の校長は幼稚園の園長も兼務している。赴任して3月の卒園式、4月の入園式での式辞が園長としての大仕事である。小さな園児たちを前に何とか卒園式は終わることができた。入園式も同じだと考えていた私は大失態を演じた。後ろの親を見て泣き出す子、かと思えば靴下を噛みだす子。予期せぬ園児の行動に頭の中は真っ白。入園前の子に話を静かに聞くことを求めるのは無理とその場になるまで気付かなかった自分が情けなかった。反省。

3 朝会でのこと

ある教室に、子どもたちが毎日水をやって大切に育てているシンビジュームがあった。葉は生い茂っているが花は咲かない。そこで、水やりは週1回にし、鉢を外に出して朝晩の寒さにあてるようにした。暮れに花芽が出、春先には黄色い花が咲いた。そのシンビジュームを例に、朝会で子どもたちに「厳しい環境でもまれることの大切さ」を話した。2年生の子どもから「校長先生のお話がよく分かった。」と手紙をもらった。

4 肥満傾向 35%越え

この数字を見て子どもたちの運動量を増やす必要を痛感した。以前から業間のマラソン、縄跳びは行っていたが、それを徹底することにした。子どもたちが走っているトラックを逆走（歩き？）し、顔を見ながら声をかけた。冬は、校庭の南側の法面をグレンデにしてそり遊びを奨励した。転任後養護の先生から改善の兆しが見えてきたと手紙をいただいたが、成果の程は定かでない。

5 学区の子どもは一緒に

ある保護者から「鳥矢崎小学区に住んでいる子どもが、家庭の都合で放課後児童クラブのある小学校に入学する。鳥矢崎に来るようにできないのか。」という話を聞いた。早速当局に、相談したところ、スクールバスを回していただけることになった。当の保護者の方にも学校の様子を見ていただきながら、そのことを説明したら鳥矢崎小に入学することになった。お陰で8人の新入生を迎えて新学期をスタートすることができ、複式学級も回避できた。

平成23年3月11日、東日本大震災が発生し、あわただしい中お世話になった保護者の皆様に挨拶する間もなく転任してしまいました。この度の学校再編で、たくさんの思い出と感動をいただいた鳥矢崎小学校が閉校するのは残念でなりません。4月からの新しい学校で鳥矢崎小学校の子どもたちが自分の夢に向かって大きく羽ばたくことを大いに期待しております。

がんばれ！鳥矢崎の子



学芸会（平成21年）





閉校にあたって

初代会長 佐藤 東一

このたび、鳥矢崎小学校として統合になった平成2年より開校して23年という短すぎる閉校となりました。学校が統廃合を余儀なくされた事例は、過去にいくつかありました。特に最近の高度経済成長などに伴って地域社会は大きく変化し、核家族化、児童数の激減はこの傾向をいっそう強める事態となりました。少子化による児童生徒数の著しい減少や急激に変化する時代に生きる子供たちの将来を考える時、学校再編は避けて通ることはできないと思います。



運動会（平成2年）

鳥矢崎小学校を建設する際は、鳥谷と鳥矢崎の学区民地域の皆様方のご理解とご協力を経て始まりました。校庭は父兄の方々のご協力により、トラクターで山砂を攪拌して運動場を造り、そして庭木も植えました。子供たちの春の運動会は、その校庭でとても素晴らしい発表の場となりました。今はなつかしく思い出されます。

子供たちと地域の皆さんも、これまで受け継がれてきた鳥矢崎小学校の歴史や伝統を受け継ぎ、新しい出会いを喜び、共に学び、共に競い合い、共に励まし合いながら、新しい学校の創造に向けて取り組んでいきましょう。

思い出のたくさんあった鳥矢崎小学校の閉校となりますが、新しい学校での環境の中で子どもたちが、新校風を構築されることを祈念するとともに、PTA活動に会員皆様のご奮闘をご期待し、地区民としてみんなで温かく見守っていききたいものです。

鳥矢崎小学校の思い出に寄せて

第5代会長 千葉 育夫



収穫祭(平成10年)

長女が平成2年に、次女が平成5年に鳥矢崎小学校と鳥谷小学校が再編した「鳥矢崎小学校」に入学しました。その長女も2児の母になり、次女も1児の母になっております。

再編した当時の鳥矢崎小学校は、山を切り開いてできた学校で、校舎は立派でも環境はとてもでないが、ほめられたものではありませんでした。雨が降った後に犬等の足跡がくっきりと残るような校庭で、とても運動ができる状態ではありませんでした。当時のPTA会長が自宅からトラクターを持参してきて校庭を耕し、PTA会員全員が出て整地し、今の

校庭にしたことを思い出します。

再編した頃はPTA会員が多く、学校行事も大いに盛り上がり、運動会の出し物の中の「PTA学年対抗綱引き大会」があり、私の学年は子供が卒業するまでたった1回しか勝てませんでしたが、夜の部では確実に優勝でした。

平成25年4月から鳥矢崎小学校は、再度の学校再編で「鳥矢崎」という校名がなくなり、「栗駒小学校」になりますが、今までの古き良き伝統を大切にして、新しいこれからの栗駒小学校を作っていってほしいと願います。



体験学習（平成11年）



**思い出そして子供たちへ**

第8代会長 菊池 正弘

私がPTA会員として在籍したのが、平成7年4月から平成18年3月までの11年間でした。3人の子供がお世話になり、在校当時を振り返りますと、忙しい中でも仕事と役職を周りの人たちに助けられながら行っていたことを思い出します。何よりも一番楽しかったことは、PTAバレーボール大会です。学年毎にチームを作り、子供たちの声援を受けながら頑張っている姿は、他の学校からは「鳥矢崎小学校はすごいね～」と毎年絶賛されていました。

私が会長を務めていた時理想としていたのが、学校、PTA、地域での子供たちの育成でした。子供は地域の宝です。隣近所はもちろん、各行政区を超えて皆で子供を見守り、未来を託せる人を育ててもらいたいと願っておりました。

少子高齢化が進み、近所にも子供が殆どいなくなり、子供たちと触れ合う機会が殆どなくなりましたが、少しでも子供と触れ合える場を求めて地域で頑張っております。



学芸会（平成14年）

未来を託す子供たちへ

誰でも将来への夢があると思いますが、夢を叶えるための努力をして下さい。そのためには、知識を得ることが大事です。学校では基礎知識を、大人になれば仕事に役立つ知識を、学ぶことは無限にあります。失敗を恐れずに前に進んで下さい。もし失敗をしてもそれで諦めずに、原因を見つけ、考え、修正し、成功に導くことも学ぶことです。

鳥矢崎小学校はなくなってしまい寂しいですが、皆さんの思い出として、いつまでも心に残るでしょう。鳥矢崎小学校で学んだ伝統を守り、新しい小学校なっても忘れ去ることなく、後輩たちに伝えていってほしいと願っています。

皆さんのご健勝とご多幸を願っています。将来、この日本を背負い行く皆さんへエールを送ります。「がんばれ～」

鳥矢崎小学校閉校にあたり

第13代会長 今田 雅宏

霞沢の学び舎から、元気に遊ぶ子どもたちの声が聞こえてこなくなることは、とても寂しいことです。児童数が年々減少している現状から、学校再編は仕方のないことと理解はできるものの、少人数学習での素晴らしさは、すでに実績として残っているだけに、とても残念でなりません。

平成21年からPTA会長として過ごした3年間は、学校や地域の皆様との交流の中で、子どもたちの成長を近くで感じることができた有意義な時間でした。そして、いつも助けてくれた教頭先生、副会長、執行部の皆さん、ありがとうございました。

多くの思い出に残る出来事の中でも、運動会では子どもたちがより良い環境の中で力が発揮できるように準備し、当日は子どもたちに負けないくらいに頑張った親子競技や綱引き、ちょっと力が入りすぎて綱が……。それでも一生懸命そして楽しそうに頑張る姿は、子どもたちの手本になったでしょう。運動会以外にも学芸会や学習参観、さらには平日に行われる水泳記録会や持久走大会にも多くの皆様の前で学習の成果を発表することができました。このような開かれた学校を作っていただいた校長先生、いつも温かく励まして下さった先生方、家庭、地域の皆様に感謝しています。

鳥矢崎小学校はなくなってしましますが、鳥矢崎の子の健やかな成長を願う地域・家庭の気持ちは変わることはありません。今まで以上の熱い気持ちで、新しく生まれる小学校と子どもたちを見守って行きましょう。

さようなら鳥矢崎小学校。

ありがとう鳥矢崎小学校。

いつまでも輝け！鳥矢崎の子！！





開校当時の思い出

元職員 千葉 功

統合の経緯は耳にしていたのですが、いざ統合となると、かなりあわただしかったように思います。

名前は残りましたが、所在地も、職員構成も校長（千葉福男先生）、教頭（菅原邦子先生）教務主任（鈴木健三先生）の三役が旧鳥谷小からと、旧鳥矢崎小から異動の職員にとってはアウェー状態でした。

開校初年度、旧鳥矢崎小から14人、旧鳥谷小から13人の合計27人の6年生を担当しました。つい3月まで、何かにつけライバルだった両校が統合したわけで、気苦労も多々ありました。山を削り造成したばかりの校庭は、栗駒おろしがふくと砂嵐で前が見えないくらいでした。草も生えない砂漠のような校庭でソフトボールの練習を始めると、ノックをしてもボールがなかなか転がらなかったものでした。

当時から栗駒町全体、スポーツが盛んで、春はソフトボール大会、夏は相撲大会と水泳大会、そして秋には陸上大会と、6年生は一年中スポーツづけの毎日でした。「猿飛来神楽」と「鳥谷娘神楽」に代表されるように両地区の伝統や個性があり、早く打ち解けようと、学校で夏休みに一晩、親子で飲みながら交流し合ったことが懐かしく思い出されます。子供たちにも恵まれ、保護者の皆様や地域の方々には新旧に合わせて8年間、大変お世話になりました。



ソフトボール大会（平成3年）



水泳大会（平成3年）

ありがとう・感謝 鳥矢崎小学校

元職員 小野寺 明美

鳥矢崎小と鳥谷小が統合した翌年の平成3年、古川管内から赴任し8年間お世話になりました。

当時は養護教諭としての経験が浅く、初めての栗原での勤務で不安もありましたが、子どもたちはもちろん、何事にも積極的に取り組み、和気あいあいとした先生方、そして学校に対して協力を惜しまない保護者の皆様・地域の皆様に支えられ、8年間勤務させていただきました。

鳥矢崎の子どもたちは優しく素直で礼儀正しいがんばり屋さん。私にも「保健の先生・明美先生」と、優しく声をかけてくれました。その優しさに応えたくて、できるだけ子どもたちとの触れ合いを多く持つように努めました。保健委員会の子供たちと「むし歯予防集会やかぜ予防集会」の資料を作って劇をしたこと、「すくすく教室」で運動やおやつ作りをしたことが懐かしく思い出されます。口腔の健康づくりにも取り組み、旧栗駒町歯科衛生士の佐藤明美さんには、歯みがき指導のため何回も学校に足を運んでいただき、大変お世話になりました。

鳥矢崎小の給食は手作り愛情たっぷり。子どもも職員も給食の時間が楽しみでした。当時は栄養士不在で、献立作成・材料発注・会計は養護教諭の仕事でした。未知の分野でしたが、調理員さんや給食主任の五十嵐安子先生に助けていただき、子どもたちのためにと思い励みました。

思い出はつきませんね。鳥矢崎小での出会いと経験は、何物にも代えがたい特別な宝物となっています。鳥矢崎小でたくさんの恩も感じました。本当にありがとうございました。鳥矢崎小は閉校となりますが、鳥矢崎の子どもたちの優しさ・素直さ・礼儀正しさ、そしてひたむきさは永遠に受け継がれることでしょう。



遺跡発掘体験（平成7年）



**希望を胸に**

元職員 佐藤 由紀子

閉校記念誌発行の便りをいただき、子どもたちの笑顔、共に過ごした校舎、思い出が次々と脳裏に浮かんできました。

私は平成7年度から14年度までの8年間お世話になりました。8年の間には、さまざまな変化がありました。隔週だった週休2日制が完全2日制になり、総合学習が定着し、パソコン学習が導入される等、めまぐるしい変化でした。

平成8年には、金成養護学校との交流の公開発表会がありました。車椅子体験や養護学校に出向いての活動等、初めてのことばかりでしたので、子どもたちと共に試行錯誤で頑張りました。

交流活動では、愛光園やわらべの会の人たちとの交流もありました。わらべの会の人たちからは、たねまき坊主の歌を教わりました。栗駒山と人々の暮らしを歌った素晴らしい歌だなあと感激しました。子どもたちも朝の会等で喜んで歌っていました。踊りは、運動会で披露したのを覚えています。

14年の秋には、総合学習の集大成としてそれぞれの学年で学習したことを全校発表する機会を設けることができました。地域や関係する人たちにも見ていただき、子どもたちも満足そうでした。オープニングでの全校合唱の歌声が、今でも耳に残っています。

全校での縦割り活動では、花壇作りや野菜作りがありました。春には、近くで鶯が鳴き、秋には、栗やどんぐり拾いに出かけ、自然にたくさん触れることができました。

鳥矢崎小の子どもたちは、思いやりがあり、がんばり屋でした。普段の学習においても熱心に取り組み、その学年での学習内容を身につけようと努力していました。相撲やその他の運動面、文化面でも、少人数ながら素晴らしい活躍ぶりでした。

さて、在校生の皆さん。閉校になっても思い出は心に残っています。努力したことに自信を持ち、みなさんを支えてくれている家族の皆さん、友達や先生方、地域の皆さんとの絆を大切に、これから出会う新しい人たちとのつながりを大切にしながら、胸を張って歩いていってください。



愛光園夏祭り（平成12年）

豊かな子どもたちを育んだ学校

元職員 熱海 宏明

私が鳥矢崎小学校に赴任したのは、平成13年度のこと。在職期間は6年間でした。私はそれまで栗原市で働いたことがなく、栗原市に勤務するのは鳥矢崎小学校が初めてでした。ですから、自分の地元で教鞭を執れることに心をわくわくさせながら、毎日を過ごしていたことを今でも思い出します。

初めてと言えば、児童数が100人より少ない小規模校も初めてでしたし、陸上や水泳の指導と同じように相撲を指導することも初めての経験でした。

6年間の中で特に思い出に残っているのは、相撲を子どもたちに指導したことです。学校には立派な土俵があったのですが、練習の仕方やまわしの付け方などは、全く分かりませんでした。なので、当時業務員をされていた阿部さんに教えていただいて、子供たちと一緒に練習に励みました。

相撲での成績ですが、鳥矢崎小学校は常に上位の成績でしたが、尾松小学校や文字小学校といった相撲の強豪が立ちほだかり、常に苦戦を強いられながらチーム戦や個人戦を戦っていました。そんな中、鳴子で開催された『学童相撲東北大会』では、子どもたちが一戦一戦を粘り強く勝ち進み、ベスト16に入ることができたのを今でもしっかりと心の中に記憶しています。子どもたち一人一人が、チームの一員として力を出し切り勝ち取った成果に、子どもたちはもちろん、保護者も先生方も喜びをかみしめた出来事でした。

鳥矢崎小学校は、素直で素朴な子どもたちと、家族的な雰囲気してくれる保護者や地域の方々に支えられた学校です。その豊かな子どもたちを育んだ校風を、是非とも統合された後にも引き継いでほしいと今はただ願うばかりです。思い出をありがとう、鳥矢崎小学校。



相撲大会（平成15年）



鳥矢崎の子六訓

元職員 小野寺 敏美

鳥矢崎小学校で退職を迎え、4年になります。平成24年度をもって閉校することを、とても残念に思っております。

私は、鳥矢崎小学校に昭和56年から7年間、そして平成17年から4年間、合わせて11年間お世話になりました。私にとって鳥矢崎小学校は初任地であり、再び赴任した鳥矢崎小学校で退職することができました。

平成17年に赴任した時は、20数年前の教え子が保護者になっており、かわいい孫のような子供たちとの生活でした。子供たちは数十年前の子供たちと同じで、明るく素直で、何事も前向きに精一杯頑張る子供たちでした。今思い返せば、「鳥矢崎の子六訓」が身につけている子がたくさん見られました。



運動会（平成17年）

鳥矢崎小学校は小規模ながらも、子供たちは行事や他校との交流会、各種大会においても、一人一人が正々堂々と自分を表現することができました。

岩手・宮城内陸地震の時は、自衛隊の皆さんに校庭と体育館を貸与し、本来の学習活動ができない状態でした。また、救助のヘリコプターが校舎周辺を飛び交い、騒音のすごさの中での生活でした。そのような中で、「一人一人ががまんすること。がまんすることも協力の一つ」と考え、全校児童が心一つになり、落ち着いて学習に取り組んだことが思い出されます。

鳥矢崎小学校は、自然環境に恵まれています。地域の方々も我が子、我が孫のように、どの子にも温かい手を差し伸べ、励ましの声をかけて下さいました。そのような素晴らしい環境の中で、子供たちはすくすくと成長できたのではないかと思います。

閉校はとても残念に思いますが、鳥矢崎小学校の卒業生、新しい学校で学ぶ皆さん、鳥矢崎小学校で学んだことを誇りに持ち、これからも元気に歩いて行ってほしいと思います。「鳥矢崎の子六訓」は、私たちの心の中で永遠に生きています。「鳥矢崎の子六訓」と共に、歩いていきましょう。

多くの教えや思い出をいただいた鳥矢崎小学校、本当にありがとうございました。

思い出は子どもたちの笑顔と共に

元職員 熊谷 かをる

「先生、今日は虹が出ていたよ。すごくきれいだよ。」

炎暑が残暑に変わっても、太陽の力が衰えを見せない9月初旬のこと。久しぶりに降ってきた夕立に少しほっとしながら帰宅すると、鳥矢崎小学校で担任した中学生の男子から小さな虹の写真が添付されたメールが届いていました。読んだ途端、一日の疲れが吹き飛び、私の中を涼しい風が流れました。豊かな自然の中で感性豊かに育まれた鳥矢崎の子供たちは、今でも、様々な形で私に元気や喜びを与えてくれる素敵な存在なのです。

私が鳥矢崎小学校に赴任したのは、栗駒町が10町村の合併により栗原市となった平成17年4月でした。7年間の勤務はすべて高学年担任でしたので、学校の顔として活躍する子どもたちの苦労や喜びを、いつもその傍らで感じてきました。「鳥矢崎の子六訓」を心の拠り所にしなが、学級や個々の目標に向かってひたむきに努力を重ねる子どもたち、学習や運動はもちろんのこと、鳥矢ヶ崎史跡公園の清掃活動や学年園で栽培した野菜を使用した収穫祭など、鳥矢崎ならではの多くの活動を通して子どもたちの良さを発見することができました。子供の純粋さと無限の可能性に感動しながら、成長を間近で感じることは、教師としての何よりの喜びであり、生き甲斐を感じさせてくれるものでした。また、広い心で温かく教育活動を支えてくださった保護者の皆様や地域の方々との交流でも、楽しみつつ多くのことを学ばせていただきました。鳥矢崎小学校に思いを馳せるたび、私は、いつも心地よい温かさに包まれ、改めて感謝の気持ちを強くしています。

閉校により鳥矢崎小学校の名前が消えても、7年間の大切な思い出は、子どもたちの輝く笑顔と共に常に心にあります。今後は、鳥矢崎小学校から巣立った子どもたちの成長を見守りながら、鳥矢崎地区の皆さんとのつながりを大切に継続していけたら幸せです。



**鳥矢崎小学校の思い出**

平成2年度卒業 菅原 耕司

私が入学したのは、今から28年前の昭和60年の4月でした。母と一緒に手をつなぎ、互いに緊張しながら行ったことを覚えています。

小さい頃は保育所と近所の年上のお兄さんとばかり遊んでいたの、地元の同級生と友達になれるかどうか心配でした。幼稚園でもおとなしい子供だったと言われていました。

身長の小さい私は、整列時いつも前で、一度で良いから後列で手を前に出すのが夢でした。たまに友達に言って順を変えてもらい、手を前に出した時は感動したことが忘れられません。

小学2年の時、菅野先生という担任でした。算数の問題が分からなくて、先生と一緒に夕方6時過ぎまで泣きながら勉強し、家まで送ってもらいました。栗駒山登山行事では、上級生と一緒に協力して山頂に着いた時に、皆で喜んだのが記憶に残っています。

私は学校を休むのが嫌いで、体調不良でも休まず通学していました。小さい頃からぜんそくを患い、頻繁に通院していましたが、それでもなぜか休まなかったのを覚えています。この体験のおかげで、今となっては子供たちには学校を休むなとよく言ってしまう。

1度だけ休みました。それは感染症になり、病院と学校から休めと言われた時でした。この時はくやしくて大泣きしたと思います。ぜんそくを治すために少年サッカークラブに入り、同級生と頑張りました。おかげで、すっかり治りはしませんでした。だいぶ良くなり、今に至っています。

小学5年の時、地元鳥谷小学校との合併の話があり、鳥矢崎と鳥谷の交流会で初の顔合わせをした時は、子供心からか、負けるものかと皆が敵対心を表したのを覚えています。今となっては恥ずかしい限りです。大人たちが毎夜学校へ行っていた覚えがあり、今思えば合併の話し合いかと思えます。新しい校舎の匂い、遊具、机、椅子どれも新しく、いちばん最初の使用はいつでもうれしいものです。

小学校最後の行事では、学校の校庭で保護者とバーベキューをし、夜中まで騒いだことがとても楽しかったです。今となっては考えられないことであり、夜テントの中では皆なかなか眠れない夜であり、当時の担任の千葉先生に叱られた苦い思い出です。



栗原郡小中学校音楽祭（平成2年）

卒業記念として、皆で校歌の文字を彫刻刀で彫って作りました。作成時に手を切っしまい、なかなかの難しさが懐かしくもあります。

この良い青春や楽しかった我が学び舎。偶然にも、私が第1期生であり、私の子供が最後の卒業生となってしまいました。私と同じく、友達と仲良く遊び、そして、勉学に励んだと思います。自分そして我が子供たち。世代は違えど同じ学び舎で過ごしたのが最高の思い出です。

今年度で最後になる鳥矢崎小学校。あなたのお陰で私たちの今があり、これからもすばらしい時を過ごせます。今まで本当にありがとう。





鳥矢崎小学校の思い出

平成3年度卒業 小野寺（旧姓 熊谷）恒二

私は、小学5年生から鳥矢崎小学校で学びました。それまで鳥谷小学校で学び、1度目の閉校を経験しました。今回は鳥矢崎小学校が閉校することとなり、母校が2つもなくなると思うと非常に寂しく思います。

今、あらためて小学校時代を思い起こしてみると、当時の思い出が蘇ってきました。統合前の交流会ではどんな人たちがいるのか、期待や不安でどきどきしていた覚えがあります。

校舎は鉄筋コンクリート造り。廊下はカーペット敷き。トイレは水洗。暖房はファンヒーター。スクールバスでの登校。それまでは木造校舎で煙突のあるストーブ、徒歩・自転車登校だったので、都会の学校にでも通っている感覚でした。1年目はプールが未完成で水泳大会の練習で近隣の小学校のプールで練習したのを覚えています。友達は倍以上に増えて賑やかになり、ここでは書ききれない位様々な出来事がたくさんあったことを思い出します。

学校生活では褒められた記憶というものはどういうわけか思い出せませんが、叱られた記憶というものは何年たっても覚えており忘れられません。そのおかげで成長でき、今の自分があります。指導していただいた先生方には心から感謝し、お礼を申し上げます。ありがとうございました。これからも学んだことを生かしていきたいと思えます。

2年間という短い時間でしたが、鳥矢崎小学校の歴史の中で過ごせたことに感謝し、誇りに思います。これから新しく栗駒小学校となるわけですが、子供たちが一瞬一瞬を思いっきり過ごし、様々な経験をたくさんして成長していけることを祈ります。そして、また新たな素晴らしい歴史を作っていくよう頑張ってください。

親子でお世話になりました

平成4年度卒業 菅原 孝志

私たちの母校の鳥矢崎小学校が閉校してしまうことになり、とても寂しく思っています。

私自身、小学校3年生までを旧鳥谷小学校で学び、4年生からは現在の鳥矢崎小学校で3年間過ごしました。真新しい校舎で、不安もありましたが、楽しみな気持ちが大きかったと思います。

当時を振り返ってみると、様々な思い出がありますが、特に印象に残っているのは「栗駒山登山」と「相撲大会」です。

栗駒山登山では、登りもきつかったですが、下りで何度も転げ落ちそうになったことを覚えています。

相撲大会では、優勝はできませんでしたが、心と体を鍛えられました。



栗駒登山（平成4年）

旧鳥谷小学校



時は経ち、今年には息子が鳥矢崎小学校へ入学しました。今度は親として学校行事へ参加させていただきました。1年間だけでしたが、親子で充実した日々を過ごさせていただきました。

鳥矢崎小学校の子どもたちは皆明るく、優しく、挨拶がしっかりとできる子ばかりです。新しい学校になる場でも、“鳥矢崎らしさ”を忘れずに、頑張りたいと思えます。

最後に、親子共々お世話になった鳥矢崎小学校へ、「ありがとうございました。」

そして、新しい学び舎で過ごす子どもたちが、ますます輝けるように祈っています。



**貴重な4年間**

平成5年度卒業 清水（旧姓 菅原）香織

鳥矢崎小学校が開校されたのが、平成2年。当時、私は3年生でした。

今から23年前のことと知り、あつという間に感じながら、とても懐かしく思います。

私には、3つ年上の兄がいましたが、引込み思案な私は、クラスの人数が増えること、初めてのスクールバス通学など、期待より不安が大きかったことを憶えています。

新校舎での生活が始まり、新しい担任の先生やクラスメイトと毎日一緒に過ごす中で不安は自然となくなり、帰宅しては毎日家族に学校での出来事を話していたそうです。

卒業まで過ごした4年間は、様々な行事とたくさんの思い出が詰まっています。

入賞目指して頑張った陸上大会・水泳大会・ソフトボール大会。4年生の運動会当日にケガをしてしまい、運動会に出られなくて泣いたこと、毎日下校時間ぎりぎりまで友達と遊んだこと、5・6年生の頃にやった交換日記、校長室で食べた給食など楽しかったことも辛かったこともいろいろありました。

現在、私は地元を離れてはいますが、鳥矢崎小学校で共に過ごした友人たちとは20年経った今も悩みを相談したりとても大事な存在となっています。

来年度より、岩ヶ崎小学校と栗駒小学校と統合と聞き驚きましたが、在校生のみなさん私のように不安に思うことも多々あるとは思いますが、新しい友達と出会い、新しい学校生活の中でたくさんの思い出を作りたいと思います。

閉校になるのは寂しいですが、お世話になった鳥矢崎小学校を誇りに思います。

在校当時の思い出を振り返って

平成6年度卒業 内海（旧姓 久我）志保

旧鳥矢崎小学校と旧鳥谷小学校が統合し、平成2年に現在の鳥矢崎小学校が開校されました。開校した当時、私は2年生でしたが、不安と期待が入り混じっていたことを思い出します。クラスの人数が増えて友達と仲良くできるかなあ？新校舎はどうなっているんだろう？スクールバスでの通学は大丈夫かなあ？担任の先生は誰だろう？そういったことを子どもながらにたくさん考えていました。

そして、真新しい校舎を目の前にした時、すごく新鮮で不安な気持ちを切り替えるきっかけになりました。新たに小学校生活が始まり、本当に数え切れないほどの思い出が今でも心に残っています。苦手な水泳を何とか得意にしようと頑張ったこと。ソフトボール大会に向けて汗だくになりながら練習した日々。陸上大会の練習では、辛い時期もあったけど、最後まであきらめないで成し遂げたこと。一致団結した運動会。収穫祭では自分たちで育てた野菜を調理し試食。そして、花山合宿、学芸会、修学旅行や委員会活動等、たくさんのことを経験しました。

休み時間には、皆でバスケや鬼ごっこをしたり、ブランコで遊んだり、時間が足りないと思うほどでした。

当時、私のクラスは32名でしたが、個性豊かな友達がたくさんいて授業中も楽しかった記憶があります。やはり、楽しい時間はあつという間に過ぎ去り、卒業を迎えました。学校への名残惜しさもあり、卒業後も何度か足を運んだことを覚えています。

小学校生活では、責任感、忍耐力、協調性や自主性等、たくさんのことを学びました。楽しい時や辛い時、悲しい時に先生方や友達の支えがあったからこそ、今の自分があると私は思います。努力すれば必ず自分の力になるはず。一人ではできないことも、仲間がいることで頑張れることがあると思います。

私の娘も鳥矢崎小学校に転入し、2年間という僅かな時間ですが、先生方の指導を始め、友達ともたくさんのことを学んでいます。娘と同じ校舎で学び育ったことを誇りに思うと同時に、感謝の気持ちが込み上げてきます。

開校と同時に鳥矢崎小学校に携わってきた方々、本当にご苦労様でした。

鳥矢崎小学校は閉校となりますが、皆さんの記憶の中にいつまでも残り続けることでしょう。



ソフトボール大会（平成6年）



ありがとう

平成7年度卒業 工藤 瑠美

「そういえば、小学校のとき・・・。」こんな言葉のフレーズが、私たちの会話の中にはよく登場します。いつも会話に出てくる小学校の思い出ですが、今回は改めて振り返ってみたいと思います。

ピカピカの校舎にピカピカのランドセル。1990年4月、私たち26名は、一番最初の1年生として入学しました。それまで、それぞれ鳥矢崎、鳥谷の旧校舎で幼稚園時代を過ごしてきた私たちにとって、真新しい校舎に足を踏み入れたときの、わくわくした気持は今でも忘れられません。階段に大きなステンドグラスがあること、購買でノートや消しゴムが買えること、すべてが新鮮でした。私たちのころは、まだ校庭に遊具が少なく、他の学校をうらやましく思ったこともありましたが、自然に囲まれた、鳥矢崎っこならでの遊びをたくさん考えました。貝の化石をさがしたり、まったく秘密になっていない秘密基地づくりに励んだり、冬は肥料袋でそりをしたり・・・。ときには、先生方も一緒にそういった遊びをしてくれたことを思い出します。



また、小学校生活6年間の中で、私たちは少しずつ様々なことができるようになっていきました。「はじめて九九が言えたこと」「はじめてプールで2.5mも泳げたこと」「はじめてなわとびで二重跳びができたこと」・・・鳥矢崎小学校は、そんな私たちの「はじめて」が詰まった大切な場所です。そして、たくさんの友達や先生に出会えたかけがえのない場所です。

「閉校」と聞き、「寂しい」気持ちでいっぱいなのですが、不思議と「悲しい」気持ちはありません。それは、鳥矢崎小学校が閉校しても、私たちの中の思い出は変わらないからだと思います。そして、私たちがこれからも鳥矢崎小学校での思い出を大切にしていけることが、私たちにできる鳥矢崎小学校への恩返しと思っています。今はただ、かけがえのない6年間を過ごさせてくれた、感謝の気持ちでいっぱいです。

自分を育ててくれた母校

平成8年度卒業 佐藤 良昭

私が鳥矢崎小学校を卒業してから、もう16年が過ぎました。同級生は16名と多くはありませんでしたが、学年の関係なしにみんな仲が良く一緒に遊び、毎日笑いながら過ごしてきたという記憶があります。

当時はメンコやカードゲームが流行っており、もちろん勉強よりも遥かに楽しく、休み時間だけでは留まらず、遊びの度が過ぎて先生たちに毎日のように怒鳴られていた気がしました。むしろ、勉強よりも毎日友達と遊ぶために学校に行っていたように思います。

掘り返せば本当にたくさんの思い出がありますが、中でも一番印象に残っているのが、6年生の時の運動会での応援合戦です。みんな敬遠する応援団長を担任の先生に推薦され、洪々団長をやったことです。初めて着る学生服に身を包み、全校児童・保護者の前で照れ臭く恥ずかしさだけで、ヤケクソになって大声を出して叫んでいたということを鮮明に覚えています。当日まで不安だらけの私に、いつもたくさんの応援や後押しをしてくれた仲間たちには本当に感謝しています。

少子化に伴い、閉校になってしまうのは本当に残念でなりません。母校がなくなったとしても小学校時代の思い出は私たち一人一人の心に永遠に刻み込まれていることと思います。今度は岩ヶ崎小学校、栗駒小学校と再編になり、新たなスタートを切りますが、これからも子どもたちにとって最高の学び舎であり続けてほしいと心から願うと共に、新たな伝統を築いていかれることを期待しています。

最後になりますが、当時お世話になった先生方、同じ期間を過ごしたたくさんの仲間たち、そしてわたしたちを支えて下さり育ててくれた地域の方々すべてに対しまして、深く感謝しております。



運動会（平成8年）



**在校生の皆様へ**

平成9年度卒業 千葉 貴宏

私は5歳のときに鳥矢崎幼稚園に入園しました。鳥矢崎幼稚園・小学校が旧鳥谷、鳥矢崎が併合して初めての園児だと大きくなってから知りました。

私はクラスの中では一番身長が低く、いつも「前にならえ」をすると先頭で早く大きくなりたいなあと思っていたのをよく覚えています。

私の同級生は始めは男子7人、女子14人、計21人でした。その後小学4年生の時、男の子が1人転校生が来て22人になりました。

出会った当初はまだぎこちなかった関係も一緒に遊ぶようになってからは大の仲良しになりました。

在校生の皆さんは来年度から再編成になり、岩ヶ崎小学校と栗駒小学校のみんなと一緒に勉強したり遊んだりすることになります。

鳥矢崎で出会った友達と、これから出会う岩ヶ崎、栗駒の友達とは将来大人になっても大切な人たちになります。

鳥矢崎での思い出を大事にして、これから新しく始まる学校生活でもたくさんの思い出を作ってください。

**私がいた鳥矢崎小学校へ**

平成10年度卒業 二階堂 由佳

児童数が減ることによる小学校統合なんて、よくある話だと思っていました。名残惜しいとは言っても、仕方のないことだと。TVではよく見るニュースでしかなかったのに、実際に自分の母校である小学校が閉校してしまう。記念誌？そんな物が作られることすら知らなかった私は、久しぶりに400字詰め原稿用紙を目の前にする機会を、今、ご縁があっただけでか頂いています。

小学生としての6年間は、誰にとっても貴重な時間です。幼稚園から小学校に上がる喜びも家族にとってはひとしお。勉強も友達との楽しい交流も初体験の連続で、休む暇もなくよく遊び、本当にたくさんの思い出ができました。時には、友達と将来は歌手になると言い、こっそり誰もいない教室で歌を練習したり、夢を語り合ったりもしました。結局、この夢は話だけでかなうことはありませんでしたが、未来になんの不安も抱かずに自由に夢を描く経験も、この時代ならではのことだったのかなと思います。

私は、平成5年に鳥矢崎小学校に入学しましたが、鳥矢崎小は平成2年に開校した小学校。当時は建てられてまだ間もない、とても新しい校舎に通っていたことになります。私はピンクや白の可愛い壁の校舎が大好きでした。かなり高い位置から吊られている大きいブランコも、滑り台と一体化になっているジャングルジムも、遊歩道の山も、幼稚園の庭にあるグミの木や桑の実も、みんな大好きでした。暑い夏はプールの水が気持ち良かったし、寒い冬はそりで遊んだり、暖かい図書室で本を読んだりしました。運動会や学芸会、陸上大会や水泳大会、一つ一つの行事に思い入れがありました。頑張り過ぎて、友達と一緒に倒れた運動会もありました。みんなで一生懸命練習したバトンリレー。速いと期待されながらもバトンをつなげず涙を飲んだ陸上大会。楽しいことも悲しいことも友達や先生と一緒に味わうことができ、幸せな小学校生活でした。

小学校は閉校してしまうけど、思い出はなくなりません。そこで生まれた絆や縁を大切に、これからも過ごしていきたいと思います。

鳥矢崎小、お疲れ様でした！たくさんのよい思い出をありがとう！



ジャングルジムにて（平成10年）



ありがとう鳥矢崎小学校

平成11年度卒業 佐藤 真理

月日が経つのは本当に早いもので、私が鳥矢崎小学校を卒業してから12年が過ぎました。当時を振り返ってみると、たくさんの思い出とその時の気持ちまで蘇ってくるようです。鳥矢崎小学校ならではのものは特に印象深く、地域のおじいちゃんおばあちゃんとの芋煮会、家庭的なおいしい給食、リッチなスクールバス通学、伝統芸能のお神楽、強制参加の陸上・水泳大会練習など、まだまだたくさんありますが、少し思い出してみただけでちょっと泣きそうです。

そして、何ととっても一番の特色は、一学年の人数が少なく、学年や男女関係なくとても仲が良いことだと思います。私の同級生は男子15人女子5人と極端で、委員会やクラブ活動でもリーダーや委員長など責任ある役割が一人一人に与えられる際に、女子が少なくて大変だったことや嫌だったこともありましたが、その分クラス全員で助け合い協力し合いながらいろいろなことに取り組みだし、深い絆で結ばれていたと思います。その証拠に、25歳になった今でもバーベキューや飲み会で集まって時間を忘れて盛り上がったり、何か困った事があれば連絡を取り合ったりと、他の学校の友達からも「鳥矢崎は本当に仲良いよね」と羨ましがられる程です。みんなとの時間は、家族といるような安心感があって、一人じゃないんだと思えて元気になれる私の自慢の大切な仲間です。

そして、こんなに最高の仲間と出会えて充実した学校生活を過ごせたのは、自分の子供のように愛情をもって指導して下さった先生方、温かく見守り応援して下さいました地域の方々、保護者の方々の存在があったからだと思います。言葉では表しきれない程、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

鳥矢崎小学校の児童会の名前になっている「つばさ」とは、自分の力でみんなの力で未来に羽ばたいていくことを表しているそうです。こんなに素晴らしい鳥矢崎小学校が閉校してしまうのはとても寂しいですが、在学中の皆さんには是非それぞれが自分の夢に向かって飛び立って行ってほしいと思います。



地域の方々との芋煮会

思い出・感謝

平成12年度卒業 熊谷 慎也

私が鳥矢崎小学校に入学したのは、今から17年前になります。その当時、校舎の外装は白い壁、内装は木の匂いがする綺麗な校舎でした。その頃の私にとっては、お城の中に入っているかのような気分になり、はしゃいでいたこともありました。

月日は流れ、卒業してからももう12年が経ちましたが、その当時の思い出はいまだに鮮明に覚えています。校内では、学年関係なく遊ぶ姿が多く見られました。ドッジボール・野球・キックベース等で楽しく、服が土だらけになるまで遊んだことが思い出として残っています。

行事では、運動会・学習発表会等があり、みんなで行事を成功させるために、何度も話し合いをしたこともありました。成功させた時の達成感も、同級生とたくさん味わうことができました。そのように教えていただいたのも鳥矢崎小学校の先生方のおかげだと思っています。小学校6年間は私にとって掛け替えのない思い出となりました。

卒業してからも何度か学校へ足を運ぶ機会がありました。その都度、懐かしさや思い出に浸ることがありました。私が学び、友達と過ごした校舎・校庭・体育館で、今後子供たちが元気な姿で過ごすことができなくなることは本当に残念に思いますが、新しくなる学校にもたくさんの期待を抱いています。在校生の皆さんには、悔いを残さず、たくさんの思い出を作って楽しい学校生活を送れることを期待しています。

私の母校、鳥矢崎小学校で学校生活を送れたこと、そこで出会った同級生は私にとっての一生の宝です。感謝します。鳥矢崎小学校、ありがとう。



学習発表会（平成12年）



**あの頃のいまは**

平成13年度卒業 土井 亨

僕にとって鳥矢崎小学校は、今となつては何よりもまず、感覚的な思い出としてある。普段、何げなくそこにある、春一番の風の音が、プールの饅^かえた匂いが、芋煮の目にしみる煙が、雪のきめ細かな肌触りが、ふとあの頃の情景へと僕を立ち還らせる。

そう、あの頃といえば、今みたいに変に気取ることなく、誰とでもまっとうに付き合っていた。巧く変化球を投げることよりむしろ、いかに速く直球を投げられるかが問題だった。だから、仲の良い友達とけんかして一週間口をきかないなんてざらにあった。放課後、バスを待つまでにやる野球、バスケ、そり遊びの間、どれだけやり合い、そしてどれだけ笑い合ったか分からない。(それにしても、よくあれほどの急勾配の崖で、そり遊びを許されていたものだ)

僕らは取るに足らないことで騒ぎ合い、担任の先生方を困らせ、そして世界に憧れていた。運動会や学芸会、スキー教室、いや日々の教室だって、僕らの眼には常に新鮮でかけがえのない経験だった。そうした経験に費やされた時間を、僕は今でも大切に思っている。(とりわけ、国体開催の場を友達と共有できたのは、そのときめきや興奮にいたるまで、僕の財産だ)

そんな鳥矢崎小学校が終わりを告げると思うと、ひどく寂しい。僕らの還るべき学校が、賑々しい笑い声に包まれることは、もはやないのだろう。

だが、僕らの心の奥底には、ふと思い出されるのを静かに待っている、あの頃の思い出がある。そして、何かをきっかけにそれらが再び見出されるとき、僕はその思い出を語り出すだろう。

だから、また会う日まで。そう、鳥矢崎小学校のかつての日々に。

鳥矢崎小学校卒業生として

平成14年度卒業 安藤 拓哉

私が鳥矢崎小学校を卒業して9年半もの年月が経とうとしています。平成9年4月、私は鳥矢崎小学校に入学しました。あの頃は、自分の背中よりもまだ大きかった真新しいランドセルを背負って登校したのを今でも覚えています。鳥矢崎はバス通学で、しかも私の家はバス停からも遠く、4つ上の姉がいた私は2人で、姉が卒業してからは弟と2人でバス停まで父や母に送られていました。帰りは祖父に迎えに来てもらっていました。ほかの友達もバス停から歩いて帰っていたので、幼いながらに迷惑をかけているなと感じていました。これから、その分の恩返しができたらいいなと思います。

私の同級生は13人でした。少人数のクラスだったこともあり男女関係なく、みんな仲が良かったと思います。その当時は学年1クラスで13人なんて普通だと思っていましたが、今考えてみると田舎らしい人数だったのだと思っています。そこが栗駒町の良さであり、鳥矢崎の良さだったのでしょ。最近では、胸を張って「小学校の同級生は13人だ」と言っています。担任の先生方は、1年生と3年生の時が洋子先生、2年生が山内先生、4年生と6年生が市川先生、5年生が俊先生でした。皆さん楽しく、面白く、優しく、たまには叱ってくださるとても素晴らしい先生方でした。そんな先生方との出会いもあり、今では教師になろうと東京の大学で勉強をしています。今思えば、教師になりたいという夢を卒業式で発表していて、私の原点はそこにあったのかなと思います。今も続けている相撲も、出会いは小学校の時でした。阿部さんに指導してもらっていた時代でした。なぜこんなにも長く続けて来られた



学習発表会 (平成14年)

のかは私自身不思議なところですが、相撲の原点も小学校だったのではないかと思います。

ほかにも小学校での思い出はたくさんあります。朝のマラソン・

なわとび、運動会、学習発表会、芋煮会。そんな思い出がたくさんある鳥矢崎小学校が閉校となるのはとても残念で、寂しくなってしまいますが、その思い出も忘れたくないし、ずっと忘れないと思います。今の私があるのは、鳥矢崎小学校で過ごし、巣立ったからです。

そんな鳥矢崎小学校にいつまでも感謝したいと思います。ありがとう、鳥矢崎小学校。



鳥矢崎小学校について思い出せること

平成15年度卒業 鈴木 一平

あたりに自然の多かった小学校は、あらかじめ設けられていた遊具で遊ぶことよりもむしろ、休み時間の短い間を使って先生にばれないように遊ぶ場所を広げることが楽しかった。ぼくはジャングルジムの後ろにある雑木林に秘密基地をつくった。奥へ行くと崖があって、そこを降りられるように近くの木々に巻きついてた葛を外してロープを作った。崖の下の道を抜けると小さな家があって、納屋の入り口のところに週刊誌が積んであった。一番上の雑誌を広げて読んでみると「ジョジョの奇妙な冒険」の第4部だったと思うけれど、ジャンケン小僧と岸辺露伴が対決するエピソードが載っていた。帰り道ではアケビが採れた。別の日は校庭のトラックに住み着いていたハサミムシを捕った。草木の生えていない露出した岩肌を登って化石を採った。昇降口の前に置いてあった一輪車には最後まで乗れなかった。今でも乗れないと思う。



校内水泳大会（平成15年）

そんな小学校に今でも小学生がいて、ぼくと同じことをして遊んでいるんじゃないかという想像は簡単にできる。それはぼくが実際にそこで遊んでいた過去を思い出して、その思い出を現在に貼り付けて想像できるからだ。今、起きてくる出来事を思い出す。そんなふうに未来の出来事だっていつまでも思い出すことはできるはずだった。けれど、それが本当にいつまでも起き続けられる未来はどうか

らなくなってしまうらしい。けれど、もしかしたらそれは今小学校に通っている子どもたちにはあんまり関係のないことかもしれないし、ぼくにだって生きてる限りぼくの通った小学校がぼくと同じ時間を生きられなくなるわけでは決してないのだから、かまわないと思う。とりあえずはそんな思い出を通してぼくは今も生きてるし、そんなふうに子どもたちが自分の生きた時間を今につないで生きていけるのなら、それでいいと思う。ただ、なんとなくそうなるだろうと思いつつも降って湧いてきた閉校という出来事を通して、ぼくが生きてるそれと同じであって、別の時間を生きていた校舎が今までどおりのあり方をやめてしまうということはなんとなくさびしいな、と思う。20年と少しの間、それまで少なくない数の子どもたちを受け入れて、追い出してくれた鳥矢崎小学校におつかれさま、と、この文章を通して言うことができている。幸い。

学び舎の思い出

平成16年度卒業 菅原 陽

学生生活の中で最も長い6年間を私はこの鳥矢崎小学校で過ごしました。広い校庭、綺麗な校舎にはたくさんの思い出があります。

朝の草取りで綺麗に保たれた校庭では、学年を問わずサッカーをしたり、野球をしたりしました。雨が降って外で遊べない日には、体育館でドッジボールやバスケットボール、校舎内でかくれんぼをして遊んでいました。体育館と校舎を結ぶ簀子が敷かれた廊下では、栗駒山から運ばれてくる雪の香りが冬の訪れを感じさせました。雪が膝くらいまで降った日には、寒さを忘れ、かまくらや雪だるまを作り、図書室の向かいにある傾斜でそりを使い、服が濡れてしまうまで遊び、授業開始に遅れてしまい先生に叱られたことを覚えています。

勉強に取り組んだ教室にもたくさんの思い出があります。用事があるとき以外出はいけないベランダ、図工の時間に作った工作が並べられたロッカー、廊下側の開閉式の壁など卒業して8年経った今でも覚えている所があります。1階にある音楽室では音楽祭に向けての練習をしました。3、4年生が合同で練習をし、音楽の時間や昼休みを使って一生懸命練習していました。その際、他学年と協力し合うことによって絆が生まれました。音楽室に掛けてあったバッハ、ベートーベンの写真が怖かったことは誰もが覚えていることでしょう。

これらのたくさんの思い出が詰まった母校が閉校になってしまうこと、後輩たちに通ってもらうことができなくなってしまうことは残念ですが、23年間お疲れ様でしたと言いたいと思います。鳥矢崎小学校で過ごした6年間は同じ学び舎で学校生活を送った友人、先生方とのかけがえのない思い出となることと思います。そして、これから新たな校舎へと移る後輩たちには、母校の素晴らしさを忘れずに受け継いでいってほしいです。



**鳥矢崎小学校の思い出**

平成17年度卒業 石川 美紅

私が鳥矢崎小学校を卒業してから6年以上の月日が経ち、今ではもう大学生になりました。高校を卒業した春休み、私たちは同窓会を開きました。残念ながら1人参加できなかったものの、6年生のときに担任してくださった熱海先生をお呼びし、17人で集まることができました。みんなで食事をしながら当時のことを振り返りました。

休み時間になる度にドッジボールの場所を確保するため体育館まで全力疾走したこと。合奏の練習中に先生が怒って出ていってしまい、みんなで後を追いかけて謝ったこと。冬は女子がストーブの前を占領していたこと。絨毯の床に習字の墨をこぼしてしまい、何時間もかけてぞうきんで汚れを落としたこと…。たくさんの思い出はたった数時間では到底語り尽くせませんでした。ほとんどの人とは何年かぶりの再会であったにもかかわらず、全く気をつかたりすることはなく、とても居心地の良い空間でした。鳥矢崎小学校で過ごした6年間で何年経っても変わらない友情を築くことができました。このことを改めて実感させられました。



芋掘り（平成17年）

私たちの鳥矢崎小学校はいつまでもそこに続く場所だと思っていました。とても心地よい、温かい、なつかしい場所が終わりを告げるのはとてもさみしいです。すてきな、大切な6年間を過ごさせてくれてありがとうございました。鳥矢崎小学校の名は消えてしまいましたが、私たちの心の中にこれからも生きていくことと思います。

夢に向かって

平成18年度卒業 千葉 明日香

私が鳥矢崎小学校を卒業してから、6年が経ちました。小学生の頃は人数も少なかったのも、みんな仲が良く一日一日がすごく楽しかったのを覚えています。放課後は、学年関係なく校庭で遊んだり体育館で遊んだり…よく走り回っていたのが懐かしいです。

そんな、思い出がたくさん詰まった「鳥矢崎小学校」がなくなってしまうのは、すごく寂しいです。でも、マラソン大会で記録を残すことができ、そしてその私の記録が誰にも破られず、ずっと残ることが私のちょっとした自慢です。あの時、祖父と先生の応援で頑張ることができました。ゴールした時、諦めないことの大切さを実感しました。走ることで良い思い出もありますが、ちょっと痛い思い出もあります。5年生の運動会。ただの徒競走ではなくパン食い競走だったのですが、1位でゴール…でも背が小さくて、ゴールテープが首に引っ掛かり、首から血が…。(笑)

その次の年、6年生の運動会の時もスタート地点付近で友達と足が絡まり転倒。膝から血が出て、大泣きしながら走っていました。今思い返すと、あの運動会は“人生はそう甘くない”ということを感じさせるためだったのかなあと考えています。

小学校での一つ一つの行事が今の自分にとって糧になっています。この間、久しぶりに卒業アルバムを見ていました。給食、さつまいも掘り、いも煮会、陸上大会、学習発表会、修学旅行…。あの時は当たり前に行っていたことも、来年から社会人になる私にはできないので、ちょっとだけ当時の自分が羨ましくなりました。でも、これからは社会人としてやれることを精一杯頑張っていきたいと思います。

私には夢があります。その夢を小学校で学んだ“諦めない心”で叶えたいと思っています。大人になると、責任(感)というのがかくついてくると思います。辛く厳しいことがたくさんあると思います。でも、辛いことの後は幸せが待っています。私は辛いことが何十年続いたとしても、何年後かの幸せに向かって全力で頑張っていきたいです。20歳になってタイムカプセルを開ける時、少しでも成長した自分で同級生に会いたいです。本当に鳥矢崎小学校の児童で良かったです。先生、クラスメイトすべてが最高でした!!名前が変わってしまうのは寂しいですが、在校生にはもっともっと小学校生活を楽しんでほしいと思います。

鳥矢崎小学校、大好きだよー!!私を成長させてくれて、ありがとうございました。



鳥矢崎小学校での思い出

平成19年度卒業 佐藤 慎也

私が、小学校を卒業したのは平成20年。今から5年前になります。私の学年は、男子5人女子3人の全員で8人という、当時ほどの学年よりも人数が少なかったことを覚えています。何より6年間、担任の先生は女の先生でしたが、どの先生も常に私たちのことを第一に考えてくれる元気な先生方だったので、男の先生がいいと思ったことはありませんでした。今、振り返ると本当にいい環境で伸び伸びと勉強や運動に取り組むことができました。少人数ということで、体育の時間、チームを組めなかったという難点はありましたが、それ以外は、1人1人がいつも主役で何でも経験することによって、自主性や協調性が育てられたように思います。1年を通しての学校行事は、学年を重ねるごとに、私たちを大きくしてくれました。中でも私の1番の思い出は、最高学年の6年生の1年です。今でも走馬灯のように頭を駆け巡ります。5年生までは、6年生に頼りきっていたのですが、6年生は8人で頑張った1年間でもありました。「鳥矢崎の子六訓」が出来たのもこの年で、学校の校旗を掲げるようになったのも私たちの年からです。自分たちの学校だと自覚するようになりました。6年担任の熊谷かをる先生には、勉強、運動はもちろん教えていただきましたが、何よりも「生きる力」、「生きていく力」を教えてくださいました。自分の周りにいる人への思いやり、自分の考えを持ちそれを相手へ伝える大切さなど、言葉では言い尽くせないほど沢山のことを教えてくださいました。私には、閉校になっても1つ楽しみにしていることがあります。それは、3年後の20歳の時、卒業式の次の日にみんなで埋めたタイムカプセルを当時の校長先生（佐藤佳彦校長先生）と担任の先生と一緒に開けることです。当時を振り返り、思い出を語りあえる日が待ち遠しいです。



ずんだばっと作り（平成19年）

再編という時代の流れで、鳥矢崎小学校は幕を下ろしますが、鳥矢崎小学校の卒業生「鳥矢崎っ子」として、小学校で学んだことを宝として、社会に役立てる人になれる様頑張りたいと思います。校長先生はじめ先生方、地域の皆さん、本当にありがとうございました。

鳥矢崎小学校

平成20年度卒業 安藤 奨馬

“学校再編”そんな言葉を耳にした。

私は、(そうなんだ。)と思い、毎日を過ごしていた。

そんなとき、今回の原稿依頼がきた。

小学校の思い出。

入学してから、卒業するまで、多くの思い出がある。

遠足、運動会、学芸会、水泳大会、マラソン大会。数えればきりが無い。

仲間との出会い。先生方との出会い。全て宝物である。

私が小学校6年のとき、岩手・宮城内陸地震があった。

校庭いっぱい消防自動車、給水車、自衛隊の方々。小学生の私には、とても衝撃的であった。

全国の人々からの励まし。今も忘れられない。

そんな中での修学旅行。忘れられない。

私は今、未来の夢に向かって高校生活を送っている。私をもっと年老いた時、自分の卒業した小学校がなくなったことを、淋しく感じるかもしれない。

しかし、時代とともに変化すること、未来に向かっての教育のあり方、閉校の淋しさと共に、新しい風、新しい時代の幕開けだと思いたい。

新しい学校の未来に幸あれ。



パークゴルフ（平成20年）





忘れられない6年間

平成21年度卒業 佐藤 香那

私にとって鳥矢崎小学校は、6年間お世話になった大切な場所であり、色々なことを学び、沢山成長し、そして仲間との最高の思い出が詰まった場所です。その母校が今年度で閉校になり、校舎が使われなくなることは、とても悲しく寂しいです。

鳥矢崎小学校の良い所は、まず、全校児童の仲が良いということだと思います。人数が少ない分、一人一人が触れ合う機会が多く、学年関係なく休み時間は遊んでいました。全校児童の仲の良さは、縦割り班の活動や委員会など数々の場面で見られたと思います。私が特に印象に残っているのは、小学校生活最後の運動会です。縦割り班のリーダーとして下級生を引っ張っていこうと、まわりと協力し助け合いながら頑張ったことを覚えています。縦割り班対抗リレーでは、メンバー全員が精一杯チームを応援し、一丸となったのを実感しました。また、卒業式は一生忘れられない思い出です。小学校生活を振り返り改めてたくさんの方々感謝しました。そして何より、下級生が涙を流してくれたことが嬉しかったです。先生方は、厳しい時もありましたが、ユーモアがあって楽しく、本当に恵まれた環境で充実した生活を送れたなと思いました。



市陸上競技大会（平成21年）

これから鳥矢崎小学校は岩ヶ崎小学校、栗駒小学校と再編成され、児童たちは岩ヶ崎小学校の校舎に通うこととなります。後輩たちには、鳥矢崎小学校の良さ、鳥矢崎魂をしっかり受け継いでほしいです。新しい環境で人数も増えて戸惑うこともあると思いますが、お互いを尊重し合い、よりよい小学校を築いていって下さい。

私自身、これまで鳥矢崎小に運動会や学芸会を見に行っていましたが、来年度はもう鳥矢崎小には見に行くことができなくなることが寂しいです。沢山の先輩方が通い、思い出深い鳥矢崎小学校が閉校になるのは悲しいです。だけど、鳥矢崎小は私たちの心の中でずっと残り続けていくと思います。どこにも負けない気持ちの良いあいさつ、根性、礼儀の正しさ、鳥矢崎らしさを忘れないで下さい。形として校歌は残るので、大事に歌い継いでいってほしいです。鳥矢崎小学校は私の自慢の母校です。鳥矢崎小の思い出は絶対に忘れません。ありがとう。

ありがとう



鳥矢崎小



2012

写真提供：ユニオンエンタープライズ(株)





鳥矢崎小学校で学んだこと

平成22年度卒業 千葉 慎太郎

小学校を卒業して、もう中学2年生だというのに、鳥矢崎小学校で過ごした日々はついこの間のように感じます。小学校生活のスタートラインに立った入学式では、体より大きなランドセルを背負い、こわばった表情で臨んでいたことを思い出します。その時は、楽しみという気持ちよりも不安や緊張の方がはるかに大きかったです。けれども、上級生や先生方、そして8人の仲間が優しく接してくれたおかげで、僕は少しずつ学校生活に慣れていくことができました。

月日が過ぎ、上級生になるにつれて「下級生をまとめる立場」となりました。また、行事の準備や片付けなど大変なこともありましたが、僕たちが下級生だった頃、上級生が色々な所で頑張ってくれていたことをよく知ることができました。

また、僕たちは忘れることのない、決して忘れてはいけない大きな出来事を2度経験しました。岩手・宮城内陸地震と東日本大震災です。特に広い範囲に被害をもたらした東日本大震災発生時、当時6年生だった僕たちは卒業制作に取りかかろうとしていました。その時突如大きな揺れに襲われたのです。卒業に向けての気持ちが高まっていた僕たちにはとてもショックな出来事でした。しかし、先生方を始めとする多くの方々のおかげで、9名は6年間お世話になったこの鳥矢崎小学校で巣立ちの日を迎えることができましたのです。本当に感謝しています。

僕は、この鳥矢崎小学校で多くのことを学び、校庭を走り回り、おいしい給食を食べ、たくさんの思い出が出来ました。その経験が中学校生活で役に立つことが何度もあります。閉校してしまうことは寂しいですが、後輩たちには鳥矢崎小学校での経験を今後も生かし、より多くのことにチャレンジしてほしいと思います。

そして、鳥矢崎小学校の思い出はいつでも心の中にあるのだから、「さよなら」ではなく「ありがとう、鳥矢崎小学校！」



竹とんぼづくり（平成22年）

大好きな鳥矢崎小学校

平成23年度卒業 安藤 亜由未

平成18年4月、どきどきわくわく、とても緊張していた入学式を思い出します。その日から18人の同級生たちと過ごした日々はとても楽しく、毎日がとても充実した6年間でした。その思い出がいっぱいつまった鳥矢崎小学校が閉校になってしまうのは、とても淋しく思います。

全校で力いっぱい頑張った運動会は、スローガンをきめてみんなで目標に向かって取り組みました。練習も一生懸命がんばりました。係の仕事もあり大変でしたが、本番ではたくさんの声援をもらいとてもうれしかったです。暑い中頑張った水泳大会では、みんなが自己新記録に挑戦して良い結果を残すことができました。陸上大会の時には、選手に選ばれるように、少しでも速く走れるよう、朝練も頑張りました。念願の入賞もでき、賞状をもらった時は最高の気分でした。そして何よりうれしかったのは、テントから聞こえる仲間からの応援でした。6年生になり小学校最後の学芸会の劇は、先生からの「合格」がなかなかもらえず、何度も何度も練習をしました。練習を重ねていくうちに、みんなの心がひとつになっていくのがわかりました。役になりきって頑張った感動が今も思い出されます。修学旅行は、寝るのがもったいないくらい楽しかったのを思い出します。

3年生から始めた娘神楽は、鳥谷小学校時代からの伝統芸能です。山車祭りの強化練習は、真夏の暑い時期で、水泳大会の練習とも重なり大変でしたが、先輩たちから受け継いだ伝統を後輩たちへ渡すことが出来て良かったと思います。

収穫祭や音楽祭、持久走大会などたくさんの行事がありました。どれも忘れられない思い出です。

そして、18人の仲間や先生たちに出会った鳥矢崎小学校が大好きです。

新しい道を歩み始める小学校のように、私も鳥矢崎小学校で学んだことを誇りに夢に向かって進んでいきたいと思います。





1年生

～ぼく、わたしのすきなばしょ～

すきなばしょ
すきなりゆう

たいけんかん
ボールをな
げるとにきがる
とたのしいからです。

たいけんかん
ひろくてなんでも
できるからす
きです。

としつ
よほくのすきなばしょ
おぼんが
あるからです。



パソコンの
すずしい、スタンプで
おえかきができる
からです。

パソコン
パソコンでおえかき
をしたしやんをみだり
するからです。

パソコンの
パソコンでえが
かけるからです。

アトアト
てんしやんにいて
ていっはいいはな
しがああるから

パソコンの
おえかき
するから
です。

りかしつ
いろいろな
じっけんをする
からです。

パソコンの
いろいろな
ゲームが
すずしい
からです。

パソコンの
スタンプでおえか
きができるから
です。



ぼくは体いく
かんがすきてすなせかと
言うときぼくが大好き
なフリスビーがでさ
るからです。

わたしは
教室がすき
です。算数や国語
や図工や生活を
するのがすきです

わたしは
しゅしゅつかがすきであ
れが、今おもしろい
思っている本は、かい
けつぞろりです。

思い出いっぱい

2年
ぼく・わたしの
すきな場所

ぼくのすきな場所は
は、タイヤのつき山です。
はったやカマキリが、
いるからです。

パソコンしゅ
がすきてすなせかと
つせるし、ハンコで
おえかきとできてた
のしいです。

ありがとう
鳥矢崎小学校

ぼくは木立のなか
きて、お休み時間
とかにサッカーとかした
りします。たまにやま
もします。



わたしは学校
のとし室が大好きです。本
がすきです。よく「おほ
ふくりおもしろい」とい
う本がすきです。とし室が

わたしは校庭がすき
です。なせかと言うとみんな
にわたしのハンコをあげるの
が、わたしのいいからです。

わたしは、
パソコンしゅがすき
です。すずしいお茶会を
かんのがたのいいか
らです。

ぼくは、
たいがすきです。夏休
みにきゅうりとかの
トマトとかをたべてお
いしくすきにたのしみ





鳥矢崎小の〇〇が一番！！

運動会が一番！
 みんな全力を出して走り
 するので気持ちいいです。
 たてわりリレーでははゆ
 人と心のバトンをつない
 ださるのが楽しかったです。

なかまが一番！
 上学年ははやくはやくお話を
 してきてほしいときはいっぱいお話を
 してあげたいです。みんなと
 しゃべると楽しいです。お話を
 聞いてくれる人がたくさん
 いるので嬉しかったです。

たてわり活動が一番！
 トランプやドッジ
 ボーや大なわとびや
 たてわりリレーをがん
 ばり楽しかったです。
 だから全校が一番です。

しょうかく祭が一番！
 11月にやるしょうかく祭は
 自分たちで準備するのって
 楽しかったです。みんなと
 おしゃべりして楽しかったです。
 おしゃべりして楽しかったです。



給食が一番！
 自炊の給食なのでおいしい食
 べ物とあたたかいお湯が飲め
 るのがいいです。おしゃべ
 りしながら食べるのがいい
 と思います。みんなと
 一緒に食べるのがいいです。

持ち寄り走大会が一番！！
 全校5周も走るのほっとも
 大々です。でも全校のみ
 んなやたくさんのおうちの人
 たちが応援してくれている
 のでがんばれました！

全校交流活動が一番！！
 先生方や全校のみんなといっ
 しょにハイキングをするのが
 楽しかったです。おしゃべり
 しながら歩くのがいいです。
 みんなと一緒に行くのが
 楽しかったです。

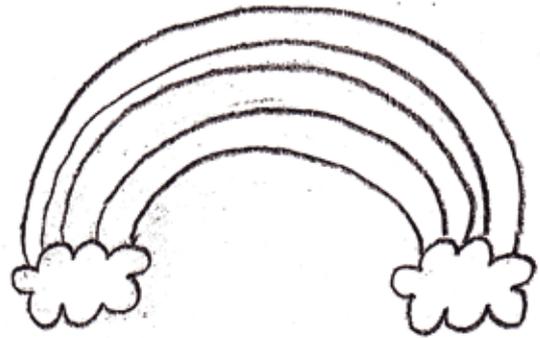
学びの会が一番！
 げきや全校合しょう音楽祭で
 発表したとき、みんなが
 見に来てくれるのが嬉し
 かったです。みんなと一緒
 に練習するのがいいです。

ありがとう！ 大すきな鳥矢崎小学校！ 3年生一同



4年生

鳥矢崎小学校4年間ありがとう。
4年間いろいろなことを勉強しました。
算数に国語に、そしてみんなといっしょに
いっぱい元気に遊びました。楽しい
思い出がたくさんできました。本当に
ありがとう。



いつも、校庭でみんなと
仲良く遊んだよ。もっともっといっ
ぱい遊びたかったなあ。鳥矢
崎小学校4年間ありがとう。い
つまでもわすれないよ。さようなら。



鳥矢崎小学校大好きだよ。
楽しい思い出たくさん作れたよ。
ありがとう。とってもうれしいよ。
23年間おつかれさまでした。
さようなら。



校庭でみんなと元気にけがも
なく4年間遊んでうれしかったよ。
一年生のころから校庭で、いろい
ろなことを学びました。走ることが
一番楽しかったよ。鳥矢山崎小学校あ
りがとうございました。

ほとくの大好き鳥矢崎小学校。今で
4年間ありがとう。お友達や学校の
中でいっぱい遊んだり、勉強したりは
おもしろかったよ。ありがとう。
さようなら。





ぼくは水泳大会で今年初めて
メダラーとフリーリレーに出場しました。
そして、当時のリレーもぼくが1位
にたのびて帰って来ました。
それもぜんぜん、プールのおかげです。
プールに感謝したいと思います。
ありがとうございました。

鳥矢山でいちばんが
ぼくのは写生で鳥矢崎小
をわいて舌かたい
トモすがしかたげでさ
いごまでかき絵で
よかたでよいはずとおも

☆☆☆ ☆☆☆
☆ フォールで練習してせ
☆ んがよかったです。
☆ フォールのかけ
☆ てのありがとう。
☆☆☆☆☆☆



鳥矢山で一番心にのこった
のは、今年の学年行事で、
パン食い競争で最初下げ
られていて、とうとう1位にな
ったときは、一瞬でして、月曜
しました。鳥矢崎小学校楽し
い思い出をありがとう。

わたしは、水泳でクロールとバタフライ
しかおぼせませんでした。
だけど、鳥矢崎小学校でのプール
でおぼえるようになりまし
て、いこうして、3年間と、友だち
とたくさんで、楽しかった思い出
が、鳥矢崎小学校で、おぼえました。
鳥矢崎、ありがとう。

ありがとう、鳥矢崎小学校
五年生

ぼくは、運動会で
す。牛車に、徒競走
争です。
ぼくは、足が、よ
やい、もう、なの
で、1位になりました。
うかれまし、鳥矢崎
小学校、ありがとう。

私が心に残っているこ
とは、国工のし、せいで
まわりは、し、ペンで、か
いて、思い出に残、した
鳥矢崎小学校、ありがとう。
みんなも、ありがとう。

一学期、お、り、が、ご、う
ぼくは、一学期、お、り、が、ご、う
か、い、は、お、り、が、ご、う、カ、ル
が、バ、タ、フ、ライ、は、お、り、が、ご、う、カ、ル
上、が、れ、た、の、が、お、り、が、ご、う、カ、ル
鳥矢崎小学校、ありがとう。

5年間の中で一番思い出に残っている
行事は、学芸会です。毎年6年生は、心
温まるおきでした。よろこぶ人は、か
い、ら、しい、お、き、で、した、その、ほ、か、の
学年は、おもしろ、かつ、た、り、楽、しい、お、き
で、した。鳥矢崎小学校、今
まで、お、せ、わ、に、な、り、ま、し、た。
お、り、が、ご、う。



私の一番の思い出は、委
員会活動です。楽しい時があ
り、大変な時もありました。でも、
それがあつたら、今の自分があると思
います。
YUKI

私がこの5年間、鳥矢崎小学校に
通って一番が、ぼくのは、べんき
う、で、お、り、が、ご、う、カ、ル、算、数、の、し、ら、し、り、
理、科、室、で、社、会、や、理、科、の、工、が、
鳥矢崎小学校、お、り、が、ご、う、カ、ル、
お、り、が、ご、う、カ、ル、
鳥矢崎小学校、ありがとう。





5年まで泳ぎが不
得意だった私の6年でいっ
うけいめんかんぱりノド
リートの選手になった。や
ればできるのがおもしろい

4年生での学芸会
おしょうさんの役はみ
んなから大うけ!!
自分ではちょっとはずか
しかった。でも楽しい
思い出!!

一番の思い出は、
修学旅行のわん
こそばを95杯食
べた!!
77777

自主研修は不
安がいっぱい!!
でもわくわくした
みんなと協力
する楽しさ強く感
じた修学旅行

ありがとう



北部水泳大会で
バタフライ25m
念願の1位!
これもみんなの
おかげ。感謝!

6年生で出場した
北部水泳大会
の背泳ぎ!!
25mと50m
で大会新記録
もう一度出たかった。

6年生 鳥矢崎小学校

修学旅行で
わんこそばを
食べた!!ぼくは
100杯
おなかいっぱい
だった。楽しかった。

特別な事では
ないけれど教室
で友達とのおしゃ
べりが私の思い出
鳥矢崎小学校
ありがとう

修学旅行の
思い出は小岩井
農場ソフトクリームは
No1 あすれ強くない味!!

修学旅行!!
直利庵でわん
こそば120杯不
食べた!!お腹
パンパン
楽しかった。

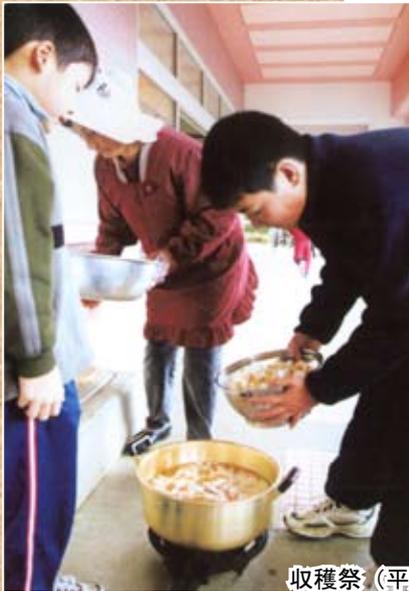




ソフトボール大会 (平成6年)



運動会 (平成8年)



収穫祭 (平成14年)



集合写真 (平成10年)



修学旅行 (平成11年)



運動会 (平成16年)



(平成19年)



学芸会 (平成20年)



野外活動 (平成23年)



平成2年度に、旧鳥矢崎小学校と旧鳥谷小学校が統合し、現在の鳥矢崎小学校として歩んできた本校も、平成24年度末をもってその歴史を終えることになりました。

この閉校にあたり、皆様方のご協力により閉校記念誌を発行する運びとなりました。誠にありがとうございます。

多くの方々からお寄せいただいた原稿や、過去の写真（アルバム）を拝見させていただきながら、短い期間ではありましたが、編集会議を重ねてまいりました。

編集を進めるにしたがって、長きにわたる本校の歴史を再認識し、歴代の校長や教職員、PTAの皆様をはじめ、諸先輩方の様々な想いやご苦勞に触れることができました。

ここに寄せられた多くの記録は、まさに歴史ある鳥矢崎小学校を締めくくるに相応しい教育実践の集大成といえます。これら本校が培ってきた良き伝統と特長であった「鳥矢崎の子六訓」が、より発展的に新生栗駒小学校に引き継がれることを願っております。

なお、本誌の編集・発行にあたり、至らぬ点もあろうかと思いますが、何卒ご了解をお願いいたします。

最後になりますが、ご多忙の中、ご寄稿くださった方々、また様々なご協力を賜りました皆様方に厚く御礼申し上げます。

委員長	菅原	博幸
副委員長	安藤	和也
委員	後藤	修二
	今田	勝幸
	二本木	一
	千葉	茂信
	菅原	仁

閉校記念誌編集委員会一同



栗原市立鳥矢崎小学校閉校記念誌

発刊 平成25年3月

発行 栗原市教育委員会

企画・編集 栗原市立鳥矢崎小学校閉校記念誌編集委員会
栗原市立鳥矢崎小学校



